

14.5-187



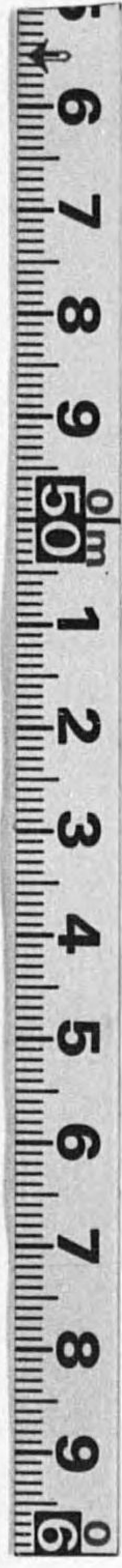
\*1200501215182\*

14  
18

畜産彙纂第四一號

牛ノ牧野利用狀況

農林省畜産局



始





凡例

發行所寄贈本



本編ハ青森、岩手、新潟、長野、兵庫、鳥取、島根、  
岡山、広島、山口、熊本及大分ノ十二縣下ニ於テ昭和  
五年中牛ニ關スル牧野ノ調査ヲ行ヒタルモノノ梗概ニ  
シテ參考資料トシテ上梓セリ

昭和六年一月

農林省畜産局

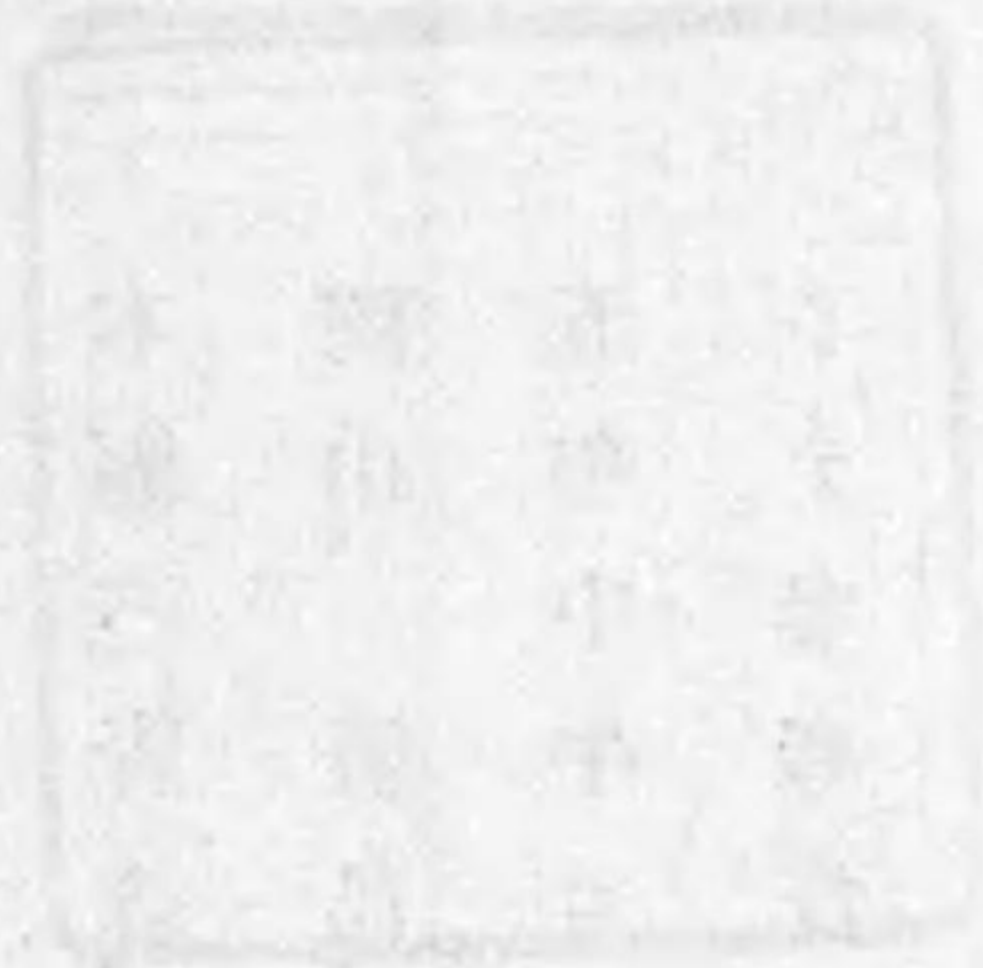


14.5-187

# 牛ノ牧野利用狀況

## 目次

一	總論	一頁
二	各縣ニ於ケル概況	一〇
	青森縣	一〇
	岩手縣	一六
	新潟縣	三
	長野縣	六
	兵庫縣	一〇
	鳥取縣	一〇
	島根縣	一〇
	岡山縣	一〇



青森県立図書館蔵









及岩手ノ兩縣ニ於テ多ク就中青森縣ニ在リテハ全國ニ於ケル御料地放牧牛總頭數約二千八百頭ノ七割四分ニ相當シテ全國ノ首位ヲ占メ國有地ノ放牧頭數ハ岩手、秋田及青森ノ三縣ニ於テ多ク殊ニ岩手縣ニ在リテハ全國ニ於ケル國有地放牧牛總頭數約一萬四千頭ノ四割四分強ニ相當シ全國中最モ多シ尙民有地中道府縣有地ノ放牧頭數最モ多キハ兵庫、新潟及鳥取ノ三縣ニシテ就中兵庫縣ニ於テハ全國ニ於ケル道府縣有地放牧牛總頭數約二千五百頭ノ五割五分強ニ相當シ全國第一位ニ在リ

要スルニ牛ノ牧野利用ハ主トシテ前記一道十七縣ニ於テ行ハレ之ガ所有關係ハ町村有、部落有及私有ニ屬スルモノ大部分ヲ占メ一部地方ニ於テハ右以外ニ御料、國有其ノ他ニ屬スルモノアリ  
牧野ノ利用狀況ハ之等ノ所有關係其ノ他ニ依リ各地方ニ於テ自ラ多少ノ差異アルモ青森外十一縣ニ於ケル實地調査ニ基キ牛ノ牧野利用ニ關スル一般狀況ヲ左ニ概説スベシ

## 一、沿革

藩制時代ノ牛ノ牧野狀況ハ詳カナラザルモ夙ニ畜牛地トシテ知ラレタル所ハ東北、北陸、中國及九州ニ亘リテ普ク存在スルノミナラズ尙一部地方ニ於ケル舊藩時ノ産牛獎勵事績其ノ他ヨリ推ストキハ牧野ノ利用ハ相當廣範圍ニ於テ行ハレタルモノト認メラルモ其ノ利用狀況ハ今日尙各地方ニ於テ見受ケラルル部落慣行ニ依ル利用ノ如ク區域並方法ニ付テハ利用者相互間ニ於テ相當内部的統制アリタルモノノ如キモ牧野所有並使用收益關係ハ明確ヲ缺キ又之ガ利用改善ニ付テハ殆ンド考慮セラレザリシモノト認メラル

明治八、九年山林原野官民有區分時代以後ニ於ケル牧野ハ多クハ其ノ所有關係ニ於テ著シキ變化ヲ來タシ且營林、開墾等ニ依ル用途ノ變更又ハ利用上ノ制限ヲ受ケタルモ使用慣行ハ尙大部分維持サレツツアリ現在最モ多ク利用セララルルハ町村有地、部落有地、私人共有地及私有地ニシテ之等ノ共同利用ノ場合ニ於ケル經營及利用ニ關シテハ利用者間ニ於テ相當團結力アルモ其ノ方法ハ未ダ舊來ノ慣行ヲ墨守スルモノ大部分ヲ占メ僅ニ一部地方ニ於テ縣其ノ他ノ指導獎勵ニ基キ牧野ノ區分並之ガ利用方法ニ付漸次改善セラレツツアルニ過ギズ

## 二、牧野ノ經營並利用狀況

**經營者** 共同利用ノ場合ハ畜産組合、町村又ハ部落ノ牛馬飼育者ノ申合ニ依ル組合等アルモ概ネ經營主體ト認ムベキモノナク舊來ノ慣行ニ從ヒ關係部落民ノ口頭申合又ハ個人ノ各所有土地持寄ニ依ルモノニシテ個人利用ノ場合ハ主トシテ土地所有者又ハ小作人ナリ尙一部地方ニ於テハ任意組合又ハ個人ノ營利ヲ目的トスル經營者アルモ其ノ數極メテ少シ

**利用者** 組合又ハ個人共同ノ場合ハ原則トシテ組合員又ハ共同者トシ口頭申合ニ依ル共同利用ノ場合ハ主トシテ關係部落ノ牛馬飼養者トスルモ他ノ預托放牧ヲ認ムルモノアリ尙營利ヲ目的トスル場合ハ別ニ利用者ノ範圍ニ制限ナシ

**事業概況** 組合經營ノ場合ハ定款及利用ニ關スル規定等ヲ設ケ之等ニ基キテ事業ヲ行フモノアルモ一般



ニ舊慣ニ基キ口頭申合ニ依リテ行フモノニシテ事業ノ概況次ノ如シ

### (イ) 放牧ノ場合

**放牧地** 主トシテ原野ニ屬スルモ山林ノ利用モ亦相當行ハレ牧野豐富ナル地方ニ於テハ專用放牧地ヲ設クルモ其ノ他ノ地方ニ於テハ探草ヲ兼ヌ而シテ放牧地ハ探草地ニ比シ地勢概ネ緩慢ニシテ給水ノ便亦良好ナリ設備ハ土壘、木柵、監視小屋等ヲ普通トシ稀ニ畜舎ヲ設置セルモノアルモ輪換放牧設備ノ如キハ殆ンド看ルベキモノナク飲水場、庇蔭樹等亦缺如セルモノ多シ

放牧地ハ一般ニ荒廢セルモノ多ク殊ニ地方ニ依リテハ山麓又ハ飲水場附近ノ如キ常ニ放牧畜ノ集合スル地區ニ於ケル局部的荒廢或ハ立木地帯ニ於ケル雜木、荆棘等ノ繁茂ニ依ル荒廢ハ著シキモノアリ而モ之ガ改良ニ付テハ一部地方ヲ除キ殆ンド行ハレザルノ現況ニ在リ

放牧地箇々ノ推定面積ハ稀ニ千町歩以上ニ達スル大規模ノモノアルモ百町歩乃至二百町歩ヲ普通トスベク五十町歩内外ノ小規模ノモノ亦相當數ニ上ルベシ而シテ一放牧地一頭當放牧面積ハ五町歩以上ノモノアルモ一町歩内外ヲ普通トシ五反歩以下ノモノモ亦相當數ニ達ス

**放牧家畜** 主トシテ役肉用種ナルモ一部地方ニ於テハ「ホルスタイン」種及其ノ雜種ニシテ年齢ハ當歲ヨリ最高十七、八歳ニ及ビ蕃殖牝牛ハ其ノ大部分放牧セラレ其ノ約三割乃至八割ハ仔付ニシテ尙生後八箇月以上ノ牝ハ普通放牧ヲ禁止セルモ其ノ勵行徹底セザル地方アリ放牧頭數ハ一放牧地ニ付五

百頭以上ノ多數ヲ容ルルモノアルモ普通ハ百頭内外ニシテ五十頭以下ノモノモ亦相當多シ

放牧ニ依リテ成牛ハ榮養可良トナリ冬季ノ粗放管理ニ對スル抵抗力増加スト稱スル地方アルモ一般ニ草生不良其ノ他ノ爲削瘦スルモノ多ク犢ハ肢蹄、骨格ノ發育良好ニシテ蕃殖力ヲ増スモ毛並荒ク外見ハ非放牧犢ニ劣ルモノナシトセズ疾病、傷害等ハ一般ニ少キモ地方ニ依リ霧醉(地方病)、犢ノ下痢、墜落等ニ依ル死傷、蛇、牛虱等ノ被害アリ

**利用狀況** 普通牛馬混牧ニシテ放牧ハ四月下旬乃至十一月下旬ノ間ニ於テ行ハレ放牧日數ハ百十日乃至百八十日ニシテ放牧ノ始終期日、日數及晝夜間ノ別等ハ各地方、各放牧地、利用方法等ニ依リ差異アルノミナラズ放牧畜ノ使役、採肥、勞力等ノ諸關係ニ依リ一樣ナラザルモ同一放牧地ニ付テハ毎年略一定セリ尙盛夏一、二月間ハ休牧スルモノ比較的多ク輪換放牧ハ一般ニ行ハレズ

放牧家畜ノ監視ニ付テハ監視人ヲ雇備常置スルモノト然ラザルモノトアリ常置セザルモノニ於テモ畜主交代ニテ常ニ監視スルモノト期日ヲ定メテ巡視スルモノトノ別アリ尙監視人ノ有無ニ拘ラズ畜主自ラ時々巡視シ自己ノ所有牛ニ鹽其ノ他ノモノヲ給與スルト同時ニ他ノ家畜ノ病傷害、發情等ノ有無ヲ檢シ各畜主互ニ注意シ合フモノナリ

尙放牧家畜ノ臺帳記入及放牧中ノ標識等ハ比較的多ク行ハレ居ルモ疾病、傷害ニ對スル應急施設ヲ爲スモノ殆ンドナシ乳牛ノ放牧ニ於テハ種牝牛ヲ混牧又ハ單獨ニ放牧シ種付ヲ行フモノアリテ地方ニ



依リテハ種牡牛一頭ニ付一人ノ管理者ヲ常設ス

(ロ) 採草ノ場合

採草地 共同利用ニ係ルモノハ比較的地勢峻峻ノ地ニ在リ普運放牧地ニ隣接シ設備トシテ看ルベキモノ殆ンドナク其ノ管理方法ハ主トシテ火入ナルモ過度ノ火入又ハ濫穫ノ爲或ハ火入困難、雜木荆棘ノ繁茂等ノ爲一般ニ荒廢シ之ガ改良ニ付テハ考慮ヲ拂ハレザルモノ多シ反之私人専用地ハ普通耕地ニ隣接シ一般ニ草生状態良好ニシテ生、乾草ノ給源トシテ最モ重キヲナス

利用狀況 共同利用ノ場合ハ各戸ニ分割使用スルモノト然ラザルモノトアリテ分割使用ノ場合ニ數年毎ニ分割換行フモノアリ又分割使用セザル場合ニ採草ノ回数並數量ニ對シ制限スルモノト然ラザルモノトアリテ制限ノ場合ハ普通年一地一回トシ數量ハ各戸又ハ各戸飼養頭數ニ對シテ割當ツ乾草ハ冬季ノ飼料並葶草トシテ利用スル地方多キモ直接肥料トシテ利用スル地方亦相當アリ而シテ之ガ調製ハ普通九月乃至十一月ノ間ニ於テ行ハレ其ノ方法ハ各戸隨意ニ又ハ時期ヲ定メ一齊ニ行フモノ等アリテ刈取後直ニ日乾シ野積トシテ隨時運搬スルモノ又ハ生草ヲ各戸ニ運搬シ日乾貯藏スルモノ等アリ普通乾草ノ歩留リハ生草ノ約三分ノ一ニシテ生草及乾草ノ利用割合ハ略同等ナルカ若ハ乾草ノ方稍大ナルベシ尙氣候ノ關係上乾草ノ調製貯藏ニ相當困難ヲ伴フ地方アリ

收支計算及經費賦課 牧野ノ共同利用ニ關スル收支ノ計算ハ概シテ不明ノモノ多キモ支出ノ主ナル費目

トシテハ公租公課、監視人ノ給料、設備費等ヲ舉グベク之等ハ各利用者ヨリ組合員負擔金、放牧料又ハ土地使用料等ノ名義ヲ以テ概ネ次ノ如キ標準ニ依リ徵收ス尙此ノ他必要ニ應ジ勞務又ハ物資ノ提供ヲ命ズルコトアリ

組合員負擔金其ノ他ノ料金ハ普通各利用者ニ對シ放牧頭數割ニ賦課スルモノナルモ地方ニヨリ牛馬ノ飼養戸數割トスルモノ或ハ飼養頭數割又ハ放牧畜ト非放牧畜トノ間ニ區別ヲ設クルモノ或ハ部落全戸數ニ對シ平等ニ又ハ納稅額ヲ基準トシテ賦課スルモノ等區々タリ

牧野ノ新設ニ要スル經費、勞力及毎年定期的ノ修繕管理ニ要スル勞力、材料等ハ關係部落ノ全戸數ニ對シ平等ニ賦課スルモノアリ尙乳牛ノ放牧地ニ於テハ種牡牛ノ價格ヲ基準トシテ放牧料ニ區別ヲ設クルモノアリ

使用收益關係 牛馬ノ放牧又ハ採草等ノ爲國有林野ノ貸付ヲ受ケ又ハ使用ヲ許可セラレタル場合ニハ相當ノ貸付料又ハ使用料ヲ徵收セラルベク市町村有、部落有及之ニ準ズルモノニ於テハ公租公課ハ普通土地ノ所有者之ヲ負擔ス又私有地ノ中ニハ舊來ノ使用慣行アル部落民ニ對シ無償或ハ僅少ノ對價ヲ以テ使用セシムルモノ珍カラズ尙原野多キ地方ニ於テハ耕地ニ一定面積ノ採草地ヲ附シ小作セシムルガ普通ナリ而シテ牧野ノ改良修繕ニ對スル經費ハ普通使用者ノ負擔ナリ使用制限ハ國有地其ノ他ニ於テハ轉貸、使用期間、大施設、火入、立木等ニ關スル制限アルモ市町村有及部落有等ニ於テハ特ニ火入以外ニ制限ヲ附ス



ルモノ少シ普通市町村有地ノ使用條例又ハ部落有林野ノ統一條件ニ基キ使用セシメ居ルモ使用制限ハ必ズシモ實行セラレズ從來ノ慣行ニ依リ使用スルモノ多シ尙使用收益ニ關スル規定全然ナキモノアリ私有地ニ於テハ普通火入、立木ノ伐採禁止、放牧後ノ採草禁止等ニ關スルモノ以外特ニ制限スルモノ殆ンドナシ

### 三、牧野利用ト他産業トノ關係

調査地ノ農業組織ハ概シテ畑作ヲ主トスル耕種ニ畜産ヲ配スルモノヲ普通ノ經營形態トシ其ノ他ノ産業ハ謂フニ足ラズ而シテ右地方ニ於ケル牛ノ牧野利用ト農業經營トノ關係ヲ看ルニ農家ノ大多數ハ牧野利用ニ依リ多數ノ牛ヲ容易ニ飼養生産シ比較的農産物ノ販賣收入少キ農山村ニ相當ノ畜産販賣收入ヲ與ヘ又放牧ニ依リ飼料費ヲ節シ飼養管理ノ手數ヲ省クト共ニ豐富ナル自給肥料ヲ生産シテ農業經營費中重要ナル部分ヲ占ムル購入肥料ヲ著シク節減シ殊ニ畑地多キ關係上畜力利用ハ相當期間ニ亘リテ勞力ノ按配ヲ適當ナラシムル等家畜ハ牧野ヲ通ジ耕種ト離ルベカラザル有機的結合ヲ爲ス然ルニ養蠶ヲ主トスル長野縣及漁業ヲ主トスル青森縣ノ一部地方ニ於ケルガ如ク乳牛ノ放牧ヲ行フ地方ニ在リテハ放牧ハ主トシテ勞力ノ調節、飼育費ノ節減等ニ貢獻スル所大ナリ又國有林其ノ他ニ於テ放牧採草ヲ行フ地方相當アルモ放牧ト營林トハ必ズシモ利害一致セズ營林ニ依ル牧野面積ノ減少或ハ山林利用ニ關スル嚴重ナル制限等ノ爲牧野ノ利用上支障ヲ來シツツアル地方アリ

### 四、牧野ニ關スル獎勵施設

縣費ヲ以テ積極的ニ牧野ニ關スル獎勵施設ヲ行フ地方少キモ時ニ模範牧野ヲ設置シ又牧柵其ノ他ノ設備ニ對シ補助金ヲ交付シテ牧野ノ完備、輪換放牧ノ獎勵等ニ努メツツアルモノアリ



## 二 各縣ニ於ケル概況

### 青 森 縣

#### 調査箇所

牧野名	種類	所在地	土地所有地	經營者	利用區域	面積	放牧頭數
白糠牧場	採放草地	下北郡東通村大字白糠及小田ノ澤	私有及	東通村大字白糠	東通村大字白糠	八 <sup>町</sup> ・四・二六(實測)	馬牛 一三一 二八〇
戸來牧場	放牧地	三戸郡戸來村字戸來岳	國有	戸來村	戸來村	九〇・〇〇〇(實測)	牛 六一九
丹内澤及上後藤ニ於ケル牧野	採放草地	三戸郡戸來村字丹内澤及上後藤	村有	戸來村	戸來村	一八・一〇〇(實測)	馬 一九四

#### 一 沿革

藩制時代ニ於ケル牧野狀況ハ明確ナラザルモ附近山野一帯ニ亘リ自由ニ牛馬ヲ放牧シ兼テ採草ヲ爲シ使用上何等ノ拘束ヲ受ケザリシガ爲牛馬ノ飼養並生産相當盛ニ行ハレタルモノノ如ク古來南部牛及南部馬ノ名アリ

明治八、九年山林原野官民所有區分施行ニ際シ住民未ダ所有ノ何タルカヲ解セズ從來使用シ來ル牧野ヲ上納シ國有地ニ編入セラレタルモノアリ之等ノ地方ニ於テハ其ノ後依然トシテ自由ニ牛馬ヲ國有地ニ放牧シタルモ其ノ後國有地ノ無斷使用

ニ對スル取締嚴重トナリタルヲ以テ牧野ノ狹隘ヲ感ズルニ至レリ茲ニ於テ國有地或ハ御料地ノ貸下ヲ出願シ之ガ貸付ヲ受ケタルモ後造林地ニ編入セラレ返換ヲ命ゼラレタルモノアリ或ハ東通村白糠牧場ノ如ク不要存置處分ニ際シ之ガ拂下ヲ受ケタルモノアリ而シテ之等放牧地ハ無統制ニ使用セラレ使用者間ノ内部的規約等明記シタルモノ少シ

要スルニ本縣ニ於ケル牧野面積ノ變遷ハ主トシテ國有地及御料地ノ増減ニ依ルモノ多シ尙現在村有牧野ノ一部ニハ部落有林野統一ノ際村有トナリタルモノアリテ從來ノ慣行部落民ニ依リ利用セララル

#### 二 現況

##### (一) 所在地、所有者ノ他

本縣ニ於テ牧野面積ノ比較的多キハ上北郡及三戸郡ニシテ之等ノ地方ニ於ケル牧野ハ主トシテ放牧地、採草地トシテ別途ニ使用セラレ津輕地方ニハ採草地割合ニ多シ一般ニ採草地ハ利用者ニ比較的近キ山麓地方ニ在ルモノ多ク牧野ノ地價ハ一町歩五十錢内外ヲ普通トスレドモ又一圓以上ニ及ブモノアリ東津輕、上北、下北ノ三郡ニハ御料地多ク國有地ハ上北、三戸ノ兩郡最モ多キヲ占メ津輕地方ハ一般ニ國有地少ク複雑ナル關係ヲ有スル入會地少カラズ

##### (二) 地勢、地味、氣候

奥羽山脈ノ東部ヲ南部地方ト稱シ廣漠タル原野東ニ向ツテ緩傾斜ヲ爲シ其ノ中ニ多クノ牧野ヲ形成ス尙三本木原及津輕地方ノ高原地ニハ牧野トシテ利用セラルモノ多ク一般ニ牧野所在地方ハ河川ニ富ミ比較的傾斜緩ニシテ波狀ヲ呈スル所多キモ溪谷ニ沿ヘル地方ハ河岸絶壁ヲ爲シ土地峻嶮ナリ

津輕五郡及下北郡ハ火山岩ノ噴出廣範圍ニ及ビ地味瘦薄ニシテ荒廢ノ狀ヲ呈セル所尠カラザルモ上北郡及三戸郡ハ第三紀



層多ク津輕地方及岩木川沿岸ハ沖積層ノ埴土及壤土ヨリ成リ何レモ地味良好ナリ

氣候ハ南部地方及津輕地方ニ於テ多少相異アルモ一般ニ寒冷ニシテ十月下旬既ニ初霜雪ヲ看而モ寒冷ノ期間長ク冬季零下十五度ニ下ルコト屢ニシテ四月ニ至ルモ零下ニ及ブコトアリ

(三) 經營及利用狀況

イ 經營者、利用者其ノ他

牧野ハ部落經營ニ依ルモノ最モ多ク其ノ他村營ニ依ルモノ及個人經營少數アリ村經營ニ於テハ村有地ヲ基礎牧野トシ附近ノ國有地ヲ借用シテ一團ノ牧野トシ或ハ借用セズシテ經營ヲ爲シ放牧地ニ於テハ放牧料ヲ徵收シ採草地ハ部落別ニ分割貸付ス而シテ各部落ハ口頭申合ニ依リ採草地ノ共同利用ヲ爲シ採草料ヲ村ニ納付ス村ハ牧野ノ設備、改良修繕等ヲ行ヒ之ニ必要ナル費用ハ村負擔ナリ

部落經營ニ依ルモノハ附近ニ存在スル牧野ヲ借用シ或ハ所有牧野ヲ基礎トシ之ニ借用牧野ヲ加ヘ一團地トシテ牛ヲ放牧シ或ハ採草ヲ爲ス之ガ利用ニ付テハ申合組合ヲ組織シ主トシテ口頭申合ヲナスモ概ネ舊慣ヲ繼續スルモノ多ク經費ハ大體放牧頭數割ナリ尙此ノ外十數名ニテ牧野ヲ借用シ共同利用ヲ爲スモノアルモ其ノ組織ハ部落經營ニ類似スルモノナリ

ロ 事業ノ概況

放牧ノ場合

放牧地 概ネ地味肥沃ナラズ且輪換放牧ノ施設ナキヲ以テ草生狀態良好ナラズ而シテ家畜ハ每年同一箇所ニ集遊スルガ爲ニ局部的ニ荒廢セル所尠カラズ放牧地ノ管理ハ概ネ經營者ノ行フ所ニシテ火入ハ各年乃至四年毎ニ一回之ヲ行フモ國有地附近ノ放牧地ニ於テハ火入ニ對スル取締嚴重ナルガ如シ

主ナル草ノ種類ハ萱、萩、ヨモギ、葛、オホバコ、芝草等ナルモ芝草ノ部分多シ施肥ハ殆ンド行ハザルモ過去ニ於テ牧草ノ播種ヲナシ或ハ現在ナシツツアル所アリ放牧地ノ設備ハ監視人小屋及土壘、木柵ニシテ飲水場ノ如キハ概ネ水源ニ富ムヲ以テ特ニ之ヲ設ケズ

放牧家畜 牛馬混牧ニシテ牝牛馬ヲ主トシ牛ハ「ホルスタイン」雜種大部分ヲ占メ牝牛ハ野合ニ依リ生産セラルルモノ多シ放牧牛ノ年齢ハ當歲ヨリ七、八歳ニ至ルモノ大部分ヲ占ム本縣ノ放牧地ハ規模比較的大ニシテ放牧頭數モ多ク調査牧野ノ放牧頭數ハ約三百八十頭乃至八百頭ナリ仔付ハ比較的少ク放牧頭數ノ普通三割内外ナリ放牧家畜ノ榮養ハ草生ノ良好ナラザル割合ニ佳良ナルモ庇陰樹少キ放牧地ニ於テハ夏季榮養衰フルコトアリ尙疾病、傷害、斃死等極メテ少シ

放牧方法 放牧期間ハ五月上旬或ハ中旬ヨリ十月下旬迄トシ輪換放牧行ハレズ普通放牧期間中監視人ヲ置キ一定ノ給料ヲ支給シ放牧家畜ヲ巡視セシムルモノニシテ村營放牧地ニ於テハ主任書記ヲ置キ放牧認容牛ニ烙印ヲナシ或ハ牛馬ノ種類、年齢、體尺等家畜ノ特徴ヲ臺帳ニ記入シ其ノ他必要ナル事務ヲ掌ラシム

採草ノ場合

採草地 共同採草地ハ主トシテ利用部落ニ近キ山麓附近ニアリテ乾草採取用ニ供サレ比較的地味良好ナルモ其ノ使用ハ稍統制ヲ缺キ且面積少ク草ノ成長良好ナラザルヲ以テ反當收量少ク通常五十貫内外ナリ私有採草地ハ前者ニ比シ一般ニ草生狀況良好ナルガ如シ火入ハ概ネ隔年一回ニシテ施肥其ノ他草生ノ改良増殖ニ意ヲ用ユル所少ク草量ハ毎年減少ノ傾向ニアリ戸來村ノ如キハ面積少ク附近ノ梅田牧場ヨリ乾草ヲ購入シツツアリ乾草ハ牛ノ飼料ニ用ユル外藁草ニ使用セラル

採草方法 概ネ共同採草ヲ行フモノニシテ村經營ニ於テハ採草地ヲ部落別ニ分割使用セシム分割ヲ受ケタル部落或ハ部落經營ニ於テハ豫メ刈取ノ日ヲ定メ一齊ニ鎌入ヲ爲スヲ普通トス草生ノ不良ナル部分ハ刈取ラザルモ組織的輪換採草ヲ行ハズ



夏期生草トシテ飼料ニ供用セラルルモノハ畦畔、路傍或ハ私有地ノ野草ニシテ乾草ハ共同採草地ニ於テ九月上旬ヨリ下旬ニ至ル間ニ一回一齊ニ鎌入ヲ行ヒ牛馬ノ背ニ依リ共同運搬ヲナシ各戸ニ分配後各自ニ乾燥スルモノニシテ之ヲ草森納屋又ハ厩舎内ニ貯藏スルモノナリ

收支計算

村經營ニ在リテハ收支計算ヲ行ヒ公租公課並牧野經營ニ要スル費用ヲ利用者ヨリ徴收ス部落經營ニ於テハ牧野ノ收支狀況詳カナラザルモ經費ハ放牧頭數割或ハ平等割ヲ以テ支辨シ必要ナル勞力ハ各戸毎ニ提供スルモノ多シ而シテ支出ノ主ナルモノハ監視人ノ給料並食費、牧野ノ使用料、設備ニ對スル修繕費及公租公課等ニシテ其ノ他種牡牛購入費等ヲ含メリ

(四) 使用收益關係

部落有林野統一ノ結果村有ニ歸シタル牧野ニ對シテハ從來ノ慣行ニヨリ之ヲ關係部落民ニ貸付シ一定ノ使用料ヲ徴收スルモ特ニ使用收益ニ關シ制限ヲ設ケズ使用年限ノ如キハ不定ニシテ關係部落ヲ第一緣故者トシ轉貸ニ際シテハ第一緣故者ノ承認ヲ得ルコトトセリ戸來村ノ如キハ村財產管理規程及牛ノ放牧管理規程ヲ設ケ經營者及利用者ハ之ニ依リ統制セラレツツアリ

(五) 調査地方ニ於ケル牧野利用ト他産業トノ關係

イ 牛ノ飼育ト牧野利用

本縣ニ於ケル成牛飼養總頭數ハ約九千百頭ニシテ其ノ約四割七分ニ相當スル約四千三百頭ハ調査地方タル下北、三戸ノ兩郡ニ於テ飼養セラレ就中三戸郡ニ於テハ三千四百頭ノ多數飼養セラル又縣下ニ於ケル牛ノ生産總頭數ハ二千四百頭ニシテ其ノ約五割一分ニ相當スル約一千二百頭ハ前記兩郡ニ於テ生産セラレ就中三戸郡ニ於テハ縣下總生産總頭數ノ約四割ニ相當ス

ル約九百頭ノ生産アリ

本縣ニ於ケル牛頭數ハ最近減少ノ傾向アリテ大正十三年度ニ於テハ成牛一萬一千五百頭ナリシガ昭和三年度ニ於テハ約九千百頭ヲ示シ下北、三戸ノ兩郡ニ於テモ同様近年漸減ノ傾向ニアリ

調査地方ノ内三戸郡ノ如キハ農家ノ大部分ハ牛ヲ飼養シ戸來村ノ如キハ飼養戸數一戸當平均牛二頭ヲ飼養ス之等ノ地方ニ於テハ生産仔畜ノ販賣ニ依ル現金收入ハ農家經濟ノ重要ナル部分ヲ占ム而シテ牛ノ大部分ヲ放牧スルガ故ニ仔畜ノ生産費ハ極メテ低廉ナリ故ニ當地地方ニ於ケル牧野利用ハ牛ノ飼養生産ヲ容易ナラシメ延テ肥料ノ自給、畜産收入ノ増加トナリ農家經濟上極メテ重要ナル役目ヲナスモノナリ尙牧野利用ト他産業トノ關係ハ漁村地方及山村地方ニ依リ夫々其ノ事情ヲ異ニスベキヲ以テ左ニ之ヲ區別シテ述ベム

ロ 普通農業トノ關係

漁村地方ニ於テハ漁業良ク發達シ住民ノ過半數ハ漁業ニ従事ス東通村ノ如キモ耕地極メテ少ク主業ハ漁業ニシテ主穀物ハ多ク他町村ヨリ購入シ牛ノ飼育ハ副業ナリ故ニ自給肥料及畜力ノ利用等看ルベキモノナシ而シテ養蠶ハ殆ンド行ハレズ造林ニ付テモ殆ンド無關心ナルモノ多シ斯ノ如キ地方ニ於テハ古來不漁時ニ對スル救濟事業ノ一トシテ牧野利用ニ依ル牛ノ飼育ヲ行ヒ來レリ

然ルニ山村地方ニ於テハ耕地相當ニ存在シ米、大豆、麥、粟、蕎麥、稗等ノ栽培ハ最モ普通ニ行ハル而シテ戸來村ノ如キハ之等生産物ノ約二割内外ヲ移出シ自給肥料ノ不足ヲ販賣肥料ヲ以テ補フ程度ニシテ一般ニ農耕比較的良ク發達ス從ツテ畜力ノ利用モ比較的多ク行ハレ之等牛ノ飼料ハ乾草、生草、大豆、藁稈類其ノ他蔬菜類ニシテ其ノ大部分ハ自家生産ナルモ其ノ少量ヲ購入スルコトアリ故ニ當地地方ノ牧野利用ニ依ル牛ノ飼育ハ農耕ト密接ナル關係ヲ保ツモノナリ



ハ 養蠶業トノ關係

養蠶業ハ氣候ノ關係上一般ニ發達セズ僅ニ春蠶ヲ飼育スルニ過ギズ牛ノ放牧ニ依ル餘剩勞力ヲ以テ養蠶ヲ行フ程度ナリ

ニ 林業トノ關係

林業ハ漁村地方ニ於テハ自家用ノ薪炭及木材ヲ採取スルニ止マリ造林等ヲ行ハザルモ戸來村ノ如キ山村ニシテ交通比較的發達シ林産物ノ運搬、販賣ニ使ナル地方ニ於テハ近年土地利用區分ヲ設定シ造林計畫等進捗シツツアリ之ガ爲原野ハ稍減少セルモ牧野利用ニ依ル牛ノ飼育ヲ無視セルモノニ非ズシテ原野ノ減少ハ造林後林間放牧ヲ行フコトニ依リ之ヲ補ハントスルモノノ如ク牛ノ飼育ト林業トヲ可及的併行セシムト努力シツツアリ

(六) 牧野ニ關スル獎勵施設

牧野ニ關スル縣ノ獎勵施設ナシ

岩 手 縣

調査箇所

牧野名	種類	所在地	土所有地	經營者	利用區域	面積	放牧頭數
袖山牧場	放牧地	九戸郡江刈町字畑	私有	江刈村字野中、中崎、中村、泉、田、栗山	字野中、中崎、中村、泉田、栗山	九、〇〇〇(臺帳)	馬牛 二二六 三七
三集子牧場	放牧地	九戸郡江刈村字三集子	私有	江刈村字三集子	主トシテ字三集子其ノ他隣接村	四、〇〇〇(臺帳)	牛 一八二

五大堂牧場	放牧地	下閉伊郡大川村大字釜津田字概取	國有	下閉伊郡岩泉町八重樫金十郎	同	一〇〇、〇〇〇(見込)	馬牛 六五〇
一杯森牧場	放牧地	下閉伊郡大川村大字釜津田	國有	大川村大字大川北畑 權作	同	三六、〇〇〇(實測)	牛 六七
岩洞牧場	放牧地	岩手郡籠川村七地割	私有	下閉伊郡岩泉町小泉靜三郎	同	二〇、〇〇〇(見込)	牛 五〇

一 沿革

藩制時代ニ於ケル牛ノ牧野狀況ニ付テハ文獻ノ遺レルモノナク不明ナルモ古來本縣ノ産牛地ハ下閉伊、九戸、二戸ノ三郡ヲ主トシ上閉伊、氣仙ノ二郡之ニ次ギ主トシテ附近山岳地若ハ起伏多キ山野ニ放牧セラレ牧野ノ使用ニ付テハ何等ノ拘束ヲ受ケザリシガ如シ

然ルニ明治八、九年頃山林原野官民有區分ニ際シ農民ハ租税ノ負擔ヲ恐レ從來使用セル土地ヲ國有地ニ編入或ハ上納シタル者少カラザリシモ之ガ使用ニ付テハ依然トシテ從來ノ慣行ヲ繼續シ國有地ニ牛馬ヲ放牧スルモノ少カラザリキ其ノ後國有地ノ無届使用ニ對スル取締次第ニ嚴重トナリ且私有地ニ於テモ所有者ノ變動ト共ニ之ガ開墾造林等行ハレ次第ニ牧野ノ狹隘ヲ感ズルニ至レリ茲ニ於テ國有地ノ使用ヲ出願シ交通不便ナル奥入地ヲ牧野トシテ利用スルニ至レリ國有地ノ一部ハ使用期間滿了ト同時ニ之ガ返換ヲ命ゼラレタルモノアリ尙部落有林野ハ其ノ統一ニ依リ村有ニ歸シタルモノ(大川村大字釜津田)アルモ慣行ニ依リ使用セシメ或ハ統一條件ニ基キ關係部落民ニ貸付シタルヲ以テ調査地方ニ於テハ牧野面積ノ増減少シ



## 二 現 況

一八

### (一) 所在地、所有者其ノ他

牧野面積ノ比較的多キハ九戸、下閉伊、岩手、上閉伊ノ四郡ニシテ二戸郡之ニ次グ本縣ニ於ケル牛馬ノ牧野面積ハ約二十萬三千町步ニシテ其ノ五割五分ニ相當スル十二萬餘町步ハ民有地、(内二割二分ハ公有地)三割四分ハ國有地ナリ御料地ハ最モ少ク僅ニ一割一分ニ過ギズ牧野ノ地價ハ普通一町步當五十錢前後ナリ

### (二) 地勢、地味、氣候

北上山脈及奥羽山脈ハ山嶽丘陵ニ富ミ其ノ間ニ原野相連リ諸所ニ良好ナル牧野ヲ形成ス殊ニ北上山脈中ニハ多數ノ牧野アリ之等ノ牧野ハ概ネ起伏多キモ地勢波狀ヲ呈シ傾斜緩ナリ採草地ハ山麓附近ノ採草ニ便ナル所ニ存シ傾斜極メテ緩ナリ河川ノ多クハ之等高原地方ニ於ケル牧野附近ノ溪谷ヨリ源ヲ發ス

基岩ハ概ネ火山岩ニシテ土壤ハ壤土ヨリ成リ地味比較的良好ナルモ亂用ノ結果荒廢ニ瀕スル所少カラズ氣候ハ一般ニ寒冷ニシテ夏期暑氣ヲ覺ユルコト稀ナリ初霜ハ十月上旬ニ於テ既ニ之ヲ看終霜ハ五月中旬ニ至ル

冬季ハ寒氣嚴シク平均氣溫華氏ノ二十度前後ニ及ビ初雪ハ十一月上旬、融雪ハ四月中旬頃ニシテ降雪量一般ニ多ク約五ヶ月間ハ積雪アリ

### (三) 經營及利用狀況

#### イ 經營者、利用者其ノ他

普通部落經營又ハ個人經營ニシテ部落經營ニ於テハ村有地以外ニ私有地ヲ借用スルモノアリ尙經營ニ當リ申合組合ヲ組

織セルモ文書ニ依ル規約ヲ設クルモノ極メテ少シ多クノ申合組合ハ概ネ口頭申合ニ止マリ經營並利用方法ハ從來ノ慣行ニ依ルモノノ如シ私有地ハ放牧部落ニ對シ一戸當約二圓ノ割ニテ貸付スルモ各部落ハ概ネ頭數割ヲ以テ之ヲ分擔ス一部ノ牧野所有者ガ其ノ私有牧野ヲ部落民ニ貸付スル所以ハ牛ノ飼育ニ依ル厩肥ヲ自己ノ小作人ニ利用セシムルニ在リ故ニ或部落ニ對シテハ特ニ使用料ヲ徵收セズ耕地ノ小作料ノミヲ取立ツルモノアリ右私有牧野ノ所有者ト經營者トノ間ニハ何等ノ規約ナク貸借期間等モ不明ニシテ唯從來ノ慣行ニ依ルモノ多シ

個人經營ニアリテハ概ネ國有地ヲ使用シ五ヶ年又ハ十ヶ年ヲ契約期間トシ自己所有ノ牛及他町村ノ預托牛ヲ放牧シ兼ネテ採草ヲ行フモノニシテ稀ニハ自己所有ノ牧野ニ於テハ自己ノ牛ヲ放牧シ且他町村及他字ノ牛ノ預托ヲ受クルモノアリ

#### ロ 事業ノ概況

##### 放牧ノ場合

放牧地 放牧地ハ波狀ヲ爲セル高原地ニシテ輪換放牧ノ施設ナク且冬季寒冷ノ期間長ク概ネ草立良好ナラズ各放牧地ノ面積ハ比較的大ニシテ二百町乃至五百町ノモノ多數ヲ占メ個人經營ノモノハ一般ニ小面積ナリ放牧地ノ管理ハ概ネ經營者ノ行フ所ナルモ殆ンド施肥及火入ヲ行ハズ近年漸次荒廢シツツアリ主ナル草ノ種類ハ薄、芝、オホバコ等ニシテ野草改良ノ念ナシ放牧地ノ設備ハ監視人小屋、土壘及木柵ニシテ年々放牧開始ニ先立ツテ之ヲ修繕ス

放牧家畜 牝牛馬ニシテ牛ハ概ネ「ホルスタイン」種系及短角種系ニ屬シ其ノ年齢ハ二歳以上十歳前後ノモノ最モ多ク仔付ノ數ハ七割前後ナリ放牧頭數ハ個人經營ニ於テハ一般ニ少ク五十頭乃至百頭ヲ普通トスルモ部落經營ニアリテハ二百頭乃至三百頭前後ナリ放牧家畜ノ營養ハ比較的良好ニシテ且體質強健ナルガ故ニ放牧中傷害、疾病、斃死ハ極メテ少數ニシテ肢蹄堅牢ニシテ短角種ハ能ク粗食ニ堪ヘ役肉兼用ニ適スト稱セラル



放牧方法 普通牛馬混牧ニシテ放牧期間ハ毎年六月上旬ヨリ秋季十月中旬頃迄ノ約五ヶ月間ナルモ此ノ期間ノ前後約一ヶ月ハ自宅附近ノ採草地ニ放牧スルヲ普通トス種牡牛ハ放牧牝牛頭數ニ依リ一頭乃至二頭ヲ混牧シ自由交配ヲ行ハシム監視人ハ種牡牛一頭當一人ヲ置キ放牧家畜ヲ巡視セシム

#### 採草ノ場合

採草地 採草地ハ利用者ニ近キ山麓附近及自宅附近ニ在リテ一般ニ放牧地ニ比シ地味良好ナルモ草立良好ナラズ故ニ反當收量ハ割合ニ少ク乾草九十貫内外ナリ主ナル草ノ種類ハ萩、葛、薄等ニシテ採草地ニハ毎年一回火入ヲ行フ所アルモ草生ノ改良増殖ヲ圖ルハ稀ナリ乾草ノ六、七割ハ牛馬ノ飼料ニ供シ殘餘ハ葎草ニ供セラル

採草方法 採草地ハ分割使用ヲ爲スヲ普通トシ大川村大字釜津田ノ如ク輪換採草ヲ行フ所ハ極メテ稀ナリ飼料用生草ノ刈取時期ハ二百日前後ニシテ葎草用ノ刈取ハ秋ノ彼岸前後ナリ鎌入ハ一年一回之ヲ行ヒ刈取リタル生草ハ牛馬又ハ人ノ背ニヨリ運搬シ稻架ニ類スル横木ニ倒吊シ乾燥ス乾草ハ普通納屋又ハ厩舎内ニ貯藏スルモノナリ

#### 收支計算

收支ノ明カナルモノ殆ンドナシ主ナル支出ハ監視人ノ給料並食費、牧野ノ使用料、設備ニ對スル修繕費及種牡牛購入費等ニシテ之等ハ個人經營ニ在リテハ經營者ノ負擔ニシテ部落經營ニ於テハ概ネ放牧頭數割ヲ以テ分擔スルモノナリ而シテ牛馬ヲ他町村或ハ他字ヨリ預托スル場合ニ於ケル放牧料ハ種牡牛ノ價格ニ依リ之ヲ決定スルモ概ネ五圓乃至二十五圓ニシテ監視人ノ給料ハ放牧期間中賄付七十圓乃至百二十圓ナリ尙公租公課ハ土地所有者ノ負擔ナリ

#### (四) 使用收益關係

國有地ヲ使用スルモノハ五年又ハ十年ヲ使用期間トシ再使用ノ場合ハ契約ヲ更新スルモノナリ個人有地ヲ借用スルモノハ

其ノ期間ニ付明確ナル規定ナキモノ多シ部落有林野ニシテ村有ニ歸シタルモノハ關係部落民ニ使用セシム

牧野ノ賃借料ハ個々ノ場合ニヨリ一定セザルモ國有地ニ於テハ一町步三十錢内外、民有地ニ於テハ十五錢内外ナリ

#### (五) 調査地方ニ於ケル牧野利用ト他産業トノ關係

##### イ 牛ノ飼育ト牧野利用

調査地方タル岩手、九戸及下閉伊郡ハ縣下ニ於ル牛ノ主要生産地ニシテ就中九戸、下閉伊ノ二郡ハ生産殊ニ盛ナリ之等地方ニ於ケル牛ノ飼養生産ハ牧野ノ利用ニ俟ツトコロ大ナリ而シテ下閉伊、九戸兩郡ニ於ケル牛ノ飼養頭數ハ各約六千七百頭及四千百頭ニシテ本縣飼養頭數ニ對シ各四割三分及二割七分ニ相當セリ尙牧野利用ト他産業トノ關係ハ左ノ如シ

##### ロ 普通農業トノ關係

水田面積極メテ少ク耕地ノ大部分ハ畑地ナリ之等ノ畑地ニハ概ネ麥、稗、大豆及馬鈴薯等ヲ栽培シ其ノ生産物ハ大部分自家用ニ供セラル畑地ニ施ス肥料ノ大部分ハ牛厩肥其ノ他ノ自給肥料ニシテ販賣肥料ノ購入ハ極メテ少量ナリ而シテ主ナル販賣肥料ハ過燐酸石灰ナリ牧野利用ニ依ル牛ノ飼養生産ハ肥料ノ自給上普通農業ト不即不離ノ關係ニアリ

##### ハ 養蠶業トノ關係

氣候ノ關係上養蠶ハ概ネ不振ニシテ特ニ桑園ト稱スル程ノモノナク多クハ山桑或ハ畑地周圍ノ一部ニ植ヘタル野生ノ桑ヲ以テ養蠶ヲ行フ故ニ收繭量一般ニ少シ養蠶ヲ行フ地方ハ牛ノ舍飼ヲ終リ春季之ヲ放牧スルニ至ラバ勞力ニ餘裕ヲ生ズルヲ以テ之ヲ利用スルモノナリ

##### ニ 林業トノ關係

一般ニ交通極メテ不便ニシテ林産物ノ運搬並販賣容易ナラズ林産物ノ主ナルモノハ用材、鐵道枕木、木炭及薪炭材ナルモ



之ガ運搬容易ナラザル爲價格極メテ低廉ナリ從ツテ林業ニ依ル農家ノ收入ハ比較的少額ナルヲ以テ未ダ造林計畫ヲ樹立シ牧野ニ造林ヲ行フモノハ殆ンドナク畜産ニ専念ス個人有牧野ハ前述ノ如ク畑地耕作ト密接ナル關係ニ在ルヲ以テ造林等ヲ行フモノナシ

(六) 牧野ニ關スル獎勵施設

牧野ニ關スル縣ノ獎勵施設ナシ

新潟縣

調査箇所

牧野名	種類	所在地	土地所有別	經營者	利用區域	面積	放牧頭數
高千村ニ於ケル放牧地	放牧地	佐渡郡高千村	縣有、村有及私有等	特ニ經營者ト認ムベキモノナシ舊來ノ慣行ニ依ル	高千村	四、三〇町(見込)	馬牛 約七〇〇 僅少
加茂村ニ於ケル放牧地	放牧地	佐渡郡加茂村	社寺有及私有等	特ニ經營者ト認ムベキモノナシ舊來ノ慣行ニ依ル	加茂村	八〇・三〇〇(見込)	馬牛 約三〇〇 僅少
高千牧場	放牧地	佐渡郡高千村大字南片邊、北片邊	縣有及私有等	佐渡郡畜産組合	佐渡郡殊ニ高千村	三〇・七〇四(見込)	馬牛 三〇二

備考 一 高千村及加茂村ニ於テハ垣外放牧ニ使用セラルル山林面積ヲ放牧面積トシテ計上セリ

沿革

本縣ニ於ケル牧野ハ縣界ノ山間部及佐渡郡ニ多キモ佐渡郡ヲ除クノ外ハ放牧盛ナラザルヲ以テ專ラ同郡ニ於ケル牧野ノ概況ヲ略述セム

現今慣行ニ依ル放牧ハ大佐渡ニノミ行ハレ之ガ沿革ニ付テハ文獻ノ徵スベキモノナキモ昔時ハ小佐渡ニモ行ハレタルハ想像ニ難カラズ寶曆年間越後玉川(越後ニ玉川村ナキモ山形縣西置賜郡南小國村ニ玉川ト稱スル地名アリ本縣岩船郡ニ接スル故昔時ハ越後領ナランカ)ノ名主地ヲ外海府ニ求メ大垣ニ關スル義務ヲ免ルムガ爲村民ニ對シ自己所有地ニ牛ノ入ルヲ妨ゲズトノ條件ヲ提出セルモ當時ノ庄屋ハ村ノ規約トシテ其ノ義務ヲ免ルルコト能ハズトノ判決ヲ下セリト傳ヘラレ又金澤村ニ牛込ト稱セラルル舊村名アリ羽茂村ニ二箇所外海府村ニ一箇所牛場ト稱スル地名アリ之等ノ事實ヨリ考察スルニ佐渡郡ノ放牧ハ少クトモ數百年ノ歴史ヲ有スルコト言フ俟タズ現在ニ於テモ放牧ノ大部分ハ舊來ノ慣行ニ依リ行ハレツツアルノ實情ナルモ金北山一帶ノ御料林ヲ縣ニ拂下セラレタル後大正十五年放牧ノ慣行ヲ有シタル金泉、高千、内海府、外海府及加茂等ノ諸村ハ縣有林放牧願ヲ提出シ其ノ許可ノ條件トシテ昭和五年十二月以降ハ縣有林内ノ放牧ヲ禁止サレ且其ノ期間内ニ區劃牧場ノ設置ヲ要求セラレタルヲ以テ佐渡郡畜産組合ハ縣有林二百八十町其ノ他ヲ合セテ總計三百七十町ノ地ヲ無償ニテ借受ケ畜産組合經營高千牧場ヲ開設セリ

二 現況

(一) 所在地、所有者其ノ他



佐渡郡ニ於ケル牧野ハ大佐渡地方ニ多ク所在シ就中外海府、高千、加茂及金泉ノ諸村ニ於ケル山林ハ殆ンド全部放牧ニ利用サレ居ル狀況ニシテ本縣下ニ於ケル放牧地ノ大部分ヲ占ム尙放牧地トシテハ上記ノ如ク山林ヲ主トスルモ此ノ外採草地及田ノ刈跡モ山林内ノ放牧ノ前後即初春及晩秋ノ候放牧ニ利用セラレ採草地トシテハ多ク海岸ノ急傾斜地ヲ利用スルモノナリ放牧地面積ハ採草地及田地ヲ除キ山林約一萬二千町ニシテ公私有ノ別ナク自由ニ放牧ニ利用セラレ内縣有地ニ屬スルモノ三割強、町村有地三割強、私有地約三割七分ニ相當シ採草地ノ大部分ハ私有地ナリ

### (二) 地勢、地味、氣候

牧野ハ金北山一帯ノ地ニシテ地勢急峻ナルモ山頂ニハ平坦地アリ地味ハ普通ナリ氣候比較的溫和ニシテ盛夏平均二十五度四、嚴冬平均二度三分ニシテ寒暑ノ差少ク雨量ハ稍多キモ積雪ハ平地ニ近キ所ニテハ一尺ヲ超ユルコト稀ナルモ山頂附近ニ在リテハ四五尺ノ積雪ヲ看ルコトアリ

### (三) 經營及利用狀況

#### イ 經營者、利用者其ノ他

高千牧場ハ佐渡郡畜産組合ノ經營ナルモ其ノ他ノ牧野ハ全ク舊來ノ慣行ニ依リ放牧地トシテ使用サレ居ルモノニシテ特ニ經營者ト認ムベキモノ無キモ多クハ部落ノ區長ガ入會規約ノ執行ニ當レリ

利用者ハ畜産組合經營ノモノニ在リテハ組合員、舊慣ニ依ルモノニ在リテハ各部落民ニシテ牛馬ヲ所有スルモノナリ畜産組合ハ放牧場規程及放牧料規程ニ準據シ放牧セシム舊慣ニ依ル放牧ニ在リテハ部落ニヨリ多少規約ヲ異ニスルモ其ノ主ナルモノハ放牧期間、方法、大垣ノ修繕及制裁ニ關スルモノナリ

#### ロ 事業ノ概況

#### 放牧ノ場合

放牧地 垣外放牧地ハ大部分潤葉樹林又ハ針潤混合樹林ニシテ山頂ニ近ク芝生地アリ火入、施肥等ヲ行フコトナク草地ニハ荒廢ノ跡ヲ認ム

高千牧場ニ於テハ周圍ニ木柵ヲ繞ラシ又監視小屋ヲ設クルモ舊來ノ慣行ニ依ル放牧地ニ於テハ大垣ヲ設クルノミ大垣ハ金泉村ニ起リ吉井村ニ終リ其ノ延長二十二、三里ニ達ス

放牧家畜 佐渡牛ヲ主トスルモ近年神石牛等ニ依リ改良セラレタルモノ尠カラズ放牧牛ハ主トシテ牝牛、犢及闌牛トス縣ハ佐渡郡ニ畜牛去勢規則ヲ施行シ四月ニ於テ生後八箇月以上ニ達シタル牝牛去勢スルモ牝犢ハ八箇月未滿ニテ賣却セラルルモノ多キヲ以テ闌牛ノ放牧セラルルモノハ比較的少シ尙候補種牝牛其ノ他特殊ノ事由ニ依リ去勢ヲ猶豫セラレタルモノアリ之等モ時ニ放牧セラルル犢ハ母牛ト共ニ放牧セラルル普通トシ牝牛中ニハ放牧中ニ分娩スルモノアリ放牧頭數ハ明カナラザルモ金泉、高千、外海府及加茂ノ諸村ニ於ケル牛ノ大多數ハ放牧セラレ其ノ他ノ諸村ニ於テハ繋牧ヲ行フモノアリ放牧家畜ハ草量充分ナラザル爲養良好ナラザルモ強健ニナルト稱セラルル蛇、牛虱等ノ被害ハ少キ模様ナリ

放牧方法 放牧期間ハ高千牧場ニ於テハ五月下旬ヨリ十月中旬迄トス舊慣ニ依ル放牧ニ在リテハ農耕地ト山林トノ境ニ大垣ヲ設ケ山林内放牧牛馬ノ耕地ニ侵入スルヲ防止スルモノニシテ耕地ヲ垣内、山林ヲ垣外ト稱セリ垣内放牧ハ春ハ八十八夜ヨリ五月中旬迄秋ハ十月下旬稻ノ收穫後ヨリ十一月下旬迄トシ採草地及水田刈跡ニ放牧スルモノニシテ以前ハ畑ノ周圍ニ小垣ト稱スルモノヲ各農家ニテ築造シ牛馬ノ侵入ヲ防ギタルヲ以テ垣内放牧モ比較的的自由ナリシガ近年其ノ修繕ヲ怠リ破損セル所少カラズ畑作物ニ害ヲ及ボスコト多キヲ以テ垣内放牧ニハ監視人ヲ附シ又其ノ期間モ短縮セラレタリ垣内放牧ニ關スル規約ニ違反シタルトキハ過料ヲ徴スルヲ普通トセリ垣内放牧期間後ハ垣外ニ放牧スルモノニシテ其ノ期間ハ五月中旬ヨリ十



月下旬迄トシ牛馬ハ草ヲ追ヒテ山麓ヨリ山頂ニ到リ寒冷ヲ覺ユルト共ニ下山シテ大垣外ニ集ル垣外放牧牛馬ガ大垣ヲ破壊シテ垣内ニ侵入シタル時ハ該牛馬所有者ニ過料ヲ課スルヲ普通トシ又破壊サレタル垣ノ修繕分擔者ニ再修繕ヲ命ジ又加茂村ニ於ケルガ如ク垣内侵入牛馬ハ發見者ヲシテ部落經營ノ牛込ト稱スル繋留所ニ牽キ來ラシメ所有者ニ引渡ス際飼養料ノ名目ニテ一種ノ過料ヲ徴スルコトアリ輪換放牧ハ行ハレズ高千牧場ニ於テハ專任ノ監視人ヲシテ牛馬ヲ巡視セシムルモ垣外放牧ノ場合ハ全ク自然ノ儘ニ放任セリ

#### 採草ノ場合

採草地 牧野ニ富メル地方ハ一般ニ平坦地ニ乏シク從ツテ採草地ハ急峻ナル斜面ニ在ルモ其ノ利用充分ナルヲ以テ雜木、荆棘等ヲ生ズルコト少ク状態可良ナリ

採草方法 採草地ハ私有ニ屬スルモノ多ク從ツテ分割採草等ハ一般ニ行ハレズ九月頃採草シ乾草トシテ冬期ノ飼料トスルモ運搬ハ人背ニ依リ牛馬背ニ依ルコト稀ナリ

#### 收支計算

畜産組合經營ノモノニアリテハ放牧料ヲ最モ主ナル收入トシ監視人給料、設備修繕費等ヲ主ナル支出トス

舊來ノ慣行ニ依ル放牧ニ於テハ近時大垣ノ修繕ヲ中止セル村多キモ高千村ニ於テハ之ヲ勵行シ部落ニ依リ多少方法ヲ異ニスルモ修繕區域ヲ個人又ハ組ニ割當テ或ハ大字共同ニテ行ヒ之ニ要スル勞力、材料等ハ部落民ノ出役及持寄材料ニ依リ又經費ヲ田反別割等ニ依リ徴收スルコトアリ

#### (四) 使用收益關係

畜産組合經營ノモノニ在リテハ縣有地ノ貸下ヲ受ケ又一部ハ森林施業組合ノ地區ヲ契約ニ依リ借受ケ何レモ無償ニテ五ヶ

年ヲ一期トセリ土地ノ改良修繕ハ經營者ノ負擔トス使用收益ニ關スル制限トシテハ土地ヲ現況ノ儘保ツヲ要ストナセリ個人ヨリ借受ケタル地ニ付テハ其ノ使用收益關係明カナラズ

其ノ他ノ牧野ニ在リテハ古來ヨリノ慣行ニ依リ放牧ニ利用サレ居ルモノニシテ縣有林中現在慣行ニ依リ放牧ニ利用セラルル土地ニ付テハ各種ノ使用條件ヲ附セラレ畜産組合經營高千牧場モ該條件ニ依リ開設セラレタルモノトス

#### (五) 調査地方ニ於ケル牧野利用ト他産業トノ關係

##### イ 牛ノ飼育ト牧野利用

縣下ニ於ケル牛ノ飼養總頭數約二萬八千頭中約一割七分ニ相當スル四千八百頭、同牛ノ生産總頭數約千八百頭中二割五分ニ相當スル四百五十頭ハ佐渡郡ニ於テ飼養生産セラルルモノニシテ之等ハ牧野利用ニ俟ツトコロ大ナリ郡内ニ於テ牛ノ生産盛ナルハ金北山ヲ中心トセル金泉、高千、外海府及加茂ノ諸村ニシテ生産頭數四百頭ニ近ク郡内生産頭數ノ約八割六分ニ當ル農家ノ三割内外ハ牛ヲ飼養シ生産地ニ於テハ牛ノ生産ニ依ル收入ハ農家ノ經濟上主要ナル地位ヲ占ム生産地方ニ於テハ勞力及飼料ノ節約ヲ主ナル目的トシテ晩春ヨリ秋末迄種牡牛ヲ除キ殆ンド全部放牧飼養セラレ冬季ハ稻藁、米糠、野乾草等ニ依リ飼養セラル尙牧野利用ト他産業トノ關係左ノ如シ

##### ロ 普通農業トノ關係

農家一戸當田五反内外、如一反内外ニシテ耕地面積極メテ小ナリ農作物ハ米ヲ主トシ農産生産額ハ諸産業中ノ第一位ヲ占ム水田ニハ二毛作ヲ行ハズ牛ハ田播ノ爲使役セラルルモ其ノ他ノ時期ニ於テハ殆ンド農耕用ニ供セラレズ畜力利用ノ上ヨリ看ル時ハ牧野利用ニ依ル牛ノ飼育ト耕種トハ關係密接ナラザルモ肥料ノ自給上重要ナル關係アリ

##### ハ 養蠶業トノ關係



佐渡郡下ノ養蠶戸數六百戸、收繭量僅ニ一萬二百貫ニ過ぎズ牛ノ飼育トハ顯著ナル關係ナシ

二 林業トノ關係

林業ハ地勢ノ關係上盛ニ行ハレ薪炭材ノ産出多ク用材モ亦尠カラズ調査地方ノ山林ハ現在ハ公私有ノ別ナク放牧ニ利用セラレ山林即牧野ト稱スルモ過言ニ非ズ

然レドモ昭和五年十二月以降ハ山林ノ少カラザル部分ヲ占ムル縣有林内ノ放牧ヲ禁止セラレ居ルヲ以テ牧野ノ縮少ヲ憂ヒ牛ノ飼養ヲ中止セントスルモノアリト聞ク之ガ對策トシテ縣有林ノ一部ニ高千牧場ヲ設ケ從來縣有林ニ放牧セラレタルモノヲ收容セントスルモ到底充分ナラズ生産地タル高千、金泉、外海府及加茂ノ諸村ニ及ボス影響尠カラザルモノアリト認メラル

(六) 牧野ニ關スル獎勵施設

一般牧野ニ關スル縣ノ獎勵施設ナキモ高千牧場設置ノ爲昭和三年度ニ於テ三千二十五圓ヲ佐渡郡畜産組合ニ補助セリ

長野縣

調査箇所

牧野名	種類	所在地	土地所有別	經營者	利用區域	面積	放牧頭數
乳山牧場	放牧地	上高井郡豊丘村大字園里	村有	北信畜産組合	上高井郡、長野市及小縣郡長村ニ豊丘村	三六・八五〇(實測)	馬牛 一一二〇〇

一 沿革

放牧地ノ由來ハ頗ル古ク神話ニ「素盞鳴尊ガ龍馬ニ乘リ天下ヲ巡行シテ信濃ニ到リ其ノ乘リ給ヘル駒ヲ遺置キテ天下ノ駒ノ種トナス、故ニ後世諸國ノ牧ノ盛ナルコト信濃ニ及ブモノナク就中望月ノ御牧殊ニ著シ云々」トアリ今ヨリ約千四百年前安閑天皇ノ御宇ニ至リテ和漢三方圖繪ニ望月牧、霧原牧ノ記事アリ其ノ後約四百年醍醐天皇ノ延喜式中ニ官設牧場トシテ信濃二十六牧ヲ擧ゲラレタリ藩制時代ニ在リテハ山野ニ自由ニ放牧スルノ慣習アリタルモノノ如キモ明治十年頃ヨリ漸次組織的放牧地ノ經營トナリ大正八年以降縣ノ牧野獎勵施設ト相俟チテ内容ノ改善ト共ニ其ノ數ヲ増シ現在縣下五十二箇所ノ開設ヲ看ルニ至レリ

二 現況

(一) 所在地、所有者其ノ他

放牧地ハ南佐久、西筑摩、下伊那、小縣等ノ諸郡山間部ニ多ク埴科郡、更級郡、諏訪郡等ニハ殆ンド放牧地ヲ看ズ放牧地ハ村有又ハ部落有ニ屬スルモノ多ク又共有地モ少カラズ一般ニ牛馬放牧地ハ原野ヲ利用シ總面積ハ一萬九千七百町ナリ

(二) 地勢、地味、氣候



一般ニハ山麓ニ展開セル原野ニシテ高原地帯ヲ爲シ地勢比較的緩ナルモ地方ニ依リテハ相當急傾斜ヲナスモノアリ而シテ地味ハ普通ニシテ氣候ハ夏季冷涼ナルモ冬季ハ寒氣嚴シク雨量ハ稍少キモ一般ニ放牧地内ニ水流アリテ飲料水ハ充分ナリ

### (三) 經營及利用狀況

#### イ 經營者、利用者其ノ他

調査箇所ニ付テ看レバ乳山牧場ノ如ク畜産組合經營アリ協和牧場ノ如ク營利ヲ目的トスル申合組合經營アリ又海ノ口牧場ノ如ク營利的個人經營アルモ縣全般トシテハ村又ハ部落經營ニ屬スルモノ最モ多ク畜産組合經營之ニ次ギ個人ノ營利ヲ目的トスルモノ亦尠カラズ尙郡別ニ看ルトキハ下伊那、上伊那、南安曇、北安曇、東筑摩等ノ諸郡ニ於ケル放牧地ハ總テ畜産組合ノ經營ニ屬シ村又ハ部落經營ニ屬スルモノハ其ノ他ノ諸郡ニ普ク存在シ尙南佐久郡ニ於テハ個人經營ノモノ尠カラズ牧場ノ多クハ簡單ナル放牧規程ヲ設ケ之ニ基キ放牧セシム利用者ハ畜産組合經營ニ在リテハ組合員トシ村又ハ部落經營ニ在リテハ南佐久郡、西筑摩郡等馬産ノ盛ナル地方ニハ地元民ヲ主トスルモノアルモ他村他又ハ部落ノ利用者ヲ主トスルモノモ尠カラズ個人經營ノモノニ在リテハ利用者ハ地元民又ハ地元以外ノ者トス牛ノ飼養者ハ各所ニ散在シ地元ニ放牧地ヲ有セザル場合少カラザルヲ以テ他郡、他村ノ放牧地ヲ利用スルモノ殊ニ多シ調査箇所ニ於テハ普通三歳以上ノ牛馬一頭一日六錢乃至七錢又ハ一箇月二圓乃至二圓六十錢ノ放牧料ヲ徴收シ當歲二歳ノモノニ付テモ放牧料ヲ徴收スルヲ普通トセリ

#### ロ 事業ノ概況

##### 放牧ノ場合

放牧地 放牧地個々ノ面積ハ千町或ハソレ以上ニ達スル大規模ノモノアルモ普通二百町内外ニシテ二十町乃至百町内外ノモノ亦尠ナカラズ状態トシテハ躑躅其ノ他ノ雜木所々ニ繁茂スルモノ一般ニ草生地ハ芝、萱、笹等ヲ主トシ荒廢セル所アリ雜

木ハ時々伐採、除根スルノミナラズ時ニ火入ヲ行ヒ荊棘等ノ整理ヲ行フコトアリ尙放牧地内ノ設備トシテハ多ク事務所兼監視小屋ヲ設ケ周圍ハ鐵線柵又ハ土壘等ヲ以テ區劃ス

放牧家畜 一般ニ牛馬混牧ナルモ西筑摩郡ニハ馬ノミ放牧スルモノ多シ畜牛ハ「ホルスタイン」種又ハ其ノ雜種ヲ主トシ搾乳業者ニ貸付ケ後歸村セル澗乳期ニ在ルモノナリ放牧牛馬ハ牝ヲ主トシ犢駒ヲ除クノ外去勢セザルモノハ放牧セシメズ但シ牛ノ放牧セラルル牧野ニ於テハ種牝牛ヲ放牧シ種付ニ應ゼシム牝牛中仔付ノモノハ比較的少シ縣下ニ於ケル牛ノ放牧總頭數ハ二千九百頭ニシテ一牧野ニ於ケル頭數ハ調査箇所ニ付テ看レバ牛馬百四十頭乃至四百四十七頭ナリ而シテ之等放牧牛馬ハ一般ニ強健ナル發育ヲ遂ゲ畜牛ノ榮養状態ハ殊ニ良好ニシテ設備比較的完備セルヲ以テ負傷、斃死等少シ

放牧方法 放牧期間ハ普通五月初旬ヨリ十月下旬迄トス一般ニ畜牛ハ馬匹ニ比シテ放牧期間長ク期間中ヲ通ジテ放牧セラレ個人經營ノ牧野ニ在リテハ畜牛ノ放牧ハ有利ナリトサレ放牧頭數モ比較的多數ナリ放牧牛ノ飼養管理ハ專任ノ監視人場内ヲ巡視シ毎日食鹽ヲ給與ス

##### 採草ノ場合

採草地 自然ノ儘ニ放置シ火入、施肥等ヲ行ハザルヲ普通トシ設備ノ看ルベキモノナシ

採草方法 共同採草ハ村有若ハ部落有林野ニ於テ行フモ分割使用等ノ方法ハ講ゼザルモノノ如ク一回刈ヲ普通トシ運搬ハ馬背ニ依ル放牧地内ニ於ケル採草ハ一般ニ行レザルモノノ如シ尙此ノ外私有林野ニ於テハ所有者自ラ採草ヲ行ヒ又料金ヲ徴收シテ採草セシムルコトアリ

##### 收支計算

收入ノ主ナルモノハ放牧料及種付料ニシテ支出ノ主ナルモノハ借地料、監視人給料、種牝牛飼養費並借受料及諸設備新設



又ハ修繕費等ニシテ純然タル共同利用ノモノニ在リテハ牧野經營ニ要スル實費ヲ放牧者ニ負擔セシムルモ普通放牧頭數割ニ依リ放牧料ヲ徵收ス個人經營ノモノニ於テハ相當利益ヲ擧ゲ居ルモノアリ

(四) 使用收益關係

賃貸借ノ場合ニハ普通一町二十錢乃至七十錢ノ借地料ヲ納メ契約期間ハ三年乃至十年ナリ公租公課ハ土地所有者ノ負擔ナルモ土地ノ改良修繕其ノ他ノ經費ハ牧野經營者ノ負擔ニシテ之ニ要スル材料等ハ無償ニテ放牧地内ヨリ採取スル場合多シ使用收益ニ關スル制限トシテハ契約書中ニ放牧期間ヲ規定セルモノアリ又大施設ヲ行フ場合土地所有者ノ承認ヲ必要トストセルモノアリ又火入禁止ノ條項ヲ設ケタルモノアリ一般ニ立木ノ處分權ハ土地所有者ニ在リ

(五) 調査地方ニ於ケル牧野利用ト他産業トノ關係

イ 牛ノ飼育ト牧野利用

縣下ニ於ケル牛ノ飼養頭數約六千八百頭ノ約二割六分ニ相當スル約千八百頭、同生産頭數約九百頭ノ約三割ニ相當スル二百八十頭ハ上高井郡、南佐久郡、北佐久郡ノ三郡ニ於テ飼養生産セラル更ニ右三郡ニ付看レバ上高井郡ニ於テハ飼養頭數約四百七十頭、生産頭數約九十頭、南佐久郡ニ於テハ飼養頭數約七百二十頭、生産頭數約百頭、北佐久郡ニ於テハ飼養頭數約六百頭、生産頭數約九十頭ニシテ上高井、南佐久ノ二郡ハ生産地トシテ名アリ縣下ノ牛ノ過半數ハ乳牛ニシテ大部分ハ「ホルスタイン」種又ハ其ノ雜種ニ屬シ農家飼養ノモノニ在リテハ縣内若ハ山梨縣、埼玉縣等ノ搾乳業者ニ貸牛セラルモノ多シ而シテ右調査地方ニ於ケル牛ノ飼養生産ハ牧野利用ニ俟ツトコロ極メテ大ナリ尙牧野利用ト他ノ産業トノ關係左ノ如シ

ロ 普通農業トノ關係

農家一戸當耕地面積ハ田一反乃至七反四畝、畑四反六畝乃至九反六畝ニ當リ畑地比較的多シ主要農作物ハ米ニシテ大豆、

大麥等ノ生産モ相當アルモ畑ノ大部分ハ桑園ナリ水田ニハ二毛作ヲ行ハザルヲ普通トセリ農産ハ養蠶ト共ニ諸産業中ノ第一位若ハ第二位ヲ占ム一般ニ畜牛頭數ハ少ク大部分乳牛ニシテ夏秋ノ候ハ勞力及飼養費ノ節約ヲ目的トシテ放牧セラレ冬ヨリ春ニ掛ケテハ貸牛セラルルコト多キヲ以テ農耕ニ利用セラレズ又厩肥モ牛ニ依ルモノ少シ普通農業ト牛ノ飼育トハ直接密接ナル關係ナシ

ハ 養蠶業トノ關係

各村トモ養蠶殊ニ盛ニシテ農家ノ大多數ハ養蠶ヲ行ヒ一戸當收滿量四十九貫乃至七十三貫ノ多キニ達シ其ノ生産額ハ諸産業中第一位若ハ第二位ニ在リ養蠶繁忙ノ期節ニハ牛ハ放牧セラレ勞力分配ノ上ニテ養蠶ト牛ノ飼育トハ衝突スルガ如キコトナシ

ニ 林業トノ關係

林産ハ農産、養蠶ニ次ギ多クハ第三位ニ在リ用材、薪炭材ヲ主要ナル産物トス山林中放牧ニ利用セラルルモノハ主トシテ村有ニ屬シ個人經營ノ牧野ニ關シテハ用地ヲ村ニ返還セシメテ造林ヲ行ヒ村有林トシテ經營セムトスル事例アルモ一般ニハ造林ノ爲ノ牧野縮少ノ事實稀ナルモノノ如シ

(六) 牧野ニ關スル獎勵施設

縣ハ牧野ノ改良普及ヲ圖ルベク大正八年以降長野縣畜産組合聯合會ニ補助金ヲ交付シ牧野ノ維持改善ヲ奨メ昭和四年度ニ於テ縣費一千百圓ヲ交付セリ大正八年以降縣費補助金總額一萬四千三百七十九圓九十九錢ニ達セリ



# 兵庫縣

## 調査箇所

牧野名	種類	所在地	土所有地	經營者	利用區域	面積	放牧頭數
奥山牧野	放牧兼採草	朝來郡奥布土村大字奥山	部落共有	放牧、奥布土部落、森部落、奥布土村	放牧、奥布土部落、森部落	四町三臺帳	牛 六七
羽尻牧野	放牧兼採草	城崎郡三方村大字羽尻	部落有	羽尻部落	大字羽尻、中羽尻、小字川畑、同羽尻、同阿瀬	100,000(見込)	牛 四三
歌長牧場	放牧兼採草	美方郡温泉町大字歌長	部落有	歌長部落	歌長部落	100,000(見込)	牛 六〇
大平牧場	放牧兼採草	美方郡照來村大字丹土	部落有	丹土部落	大字丹土、中丹土、小丹土、中丹土	吾、0000(見込)	牛 四〇

## 一 沿革

藩制時代ニ於ケル牛ノ牧野狀況ハ詳カナラザルモ慶應年間ニ至リ幕府ハ廣瀬元恭ヲシテ但馬國產牛ヲ教導セシムガ爲同國ニ於ケル御料、私領、寺社領ヲ巡廻セシメタリ然レドモ時恰モ維新ノ大變革ニ會シ其ノ成績ノ看ルベキモノナカリキ明治九年豊岡縣ハ舊七美郡兎塚村ナル大笹ノ原野ニ廣大ナル牧場ヲ設ケ牛ノ改良ニ着手セルモ其ノ後風雨ノ爲建物皆倒潰ノ厄ニ遭ヒ該牧場ハ遂ニ廢止セラレタリ降ツテ大正七年縣ハ美方郡下ニ百餘町歩ノ夏期放牧地ヲ設置シ但馬牛ノ改良蕃殖ニ資セリ

淡路ニ於テハ維新前ヨリ耕耘ニ使役スル牝牛及運搬ニ供スル牝馬ヲ春夏秋ノ期節中使役セザルトキハ山野ニ放牧シ傍ラ蕃殖セシメタルヲ以テ朝霧山脈ノ連互セル地方ハ自然牧野ノ狀況ヲ呈セシモ明治六年該山野民有トナルニ及ビ自己ノ利益ヲ縱ニセムト欲シ牛馬ノ放牧ヲ嫌忌スルニ至リ加之同九年ニハ遺失物條例ヲ同十一年ニハ本縣遠式條例ノ發布アリタルヲ以テ古來ヨリ行ハレツツアリシ放牧ハ全ク其ノ跡ヲ絶タムトスルニ至レリ其ノ後有志ノ者之ヲ慨シ縣ニ乞ヒ放牧ヲ默許セシムルニ至リタルヲ以テ各自所有ノ山林ヲ以テ佐野東山牧場、佐野西山牧場及釜口町牧場等ノ設置ヲ看タリ

斯ク牛ノ放牧ハ相當古クヨリ行ハレタルモノニシテ自由放牧時代ヨリ縣有牧場及民間ニ於ケル共同放牧地ノ設置トナリ爾來幾多ノ盛衰ヲ經テ今日ニ至レルモノニシテ此ノ間採草地トシテ特ニ明記セルモノナン最近ニ於テ牧野トシテ使用シツツアルハ大部分公有地ニシテ從來ヨリノ關係部落民ノ共同利用ヲ存續ス

## 二 現況

### (一) 所在地、所有地其ノ他

本縣ノ大部分ノ牧野ハ縣ノ北部タル城崎、出石、養父、朝來、美方ノ五郡ニ亘リ所謂但馬牛ノ原產地タル但馬國ハ本縣ニ於ケル牧野ノ大部分ヲ包含ス牛馬ノ牧野總面積ハ約二萬七千四百町歩ニシテ之ガ所有別ニ付看ルニ公有地ハ總面積ノ約六割四分ニ達シ私有地ハ約三割五分ニシテ社寺有ハ極メテ小面積ナリ放牧地ト採草地トノ面積ノ比ハ六對一ノ如キ統計上ノ數字ヲ看ルモ放牧地ヲ採草ニ兼用スルモノ多シ而シテ之等牧野ニ於テ放牧採草地トシテ共同利用ニ供サレ居ルモノハ大部分部落有地ニシテ入會關係ノ整理未了ノモノモ尙相當殘存ス

### (二) 地勢、地味、氣候



一般ニ群山重疊シ平坦地少ク就中主要産牛地ハ山谷峻隘ナリ地味ハ相當良好ニシテ蛇紋岩ヨリ形成セラレタル礫土ヲ看ル所アリ年内ヲ通ジ雨量多ク冬季モ降雨亦少カラズ

(三) 經營及利用狀況

イ 經營者、利用者其ノ他

經營者ハ同時ニ利用者ニシテ之ガ實狀ハ舊來ノ慣行ニ依リ牧野關係部落民中ノ牛馬飼養者ナルモ牧野ノ經營及利用ニ當リ特ニ組合ノ如キモノヲ設ケズ關係部落住民ハ總テ牧野利用ノ權利ヲ有スルモノ多ク寄留者其ノ他ノ移入者ニシテ新ニ權利ヲ得ムトスル場合ハ加入金ヲ納付スベキモノトセリ

入會地ニ在リテハ入會關係者間ニ於テ保護規則等ヲ設ケテ之ガ管理經營ヲ爲シ來リタルモ最近分割案ヲ建テ利用地區ヲ區分セムトシツツアルモノアリ牧野ニ要スル經費ハ實際利用者ノミニ賦課スル場合ト當該部落ニ於ケル區費ヨリ支出スル場合トアリ

ロ 事業ノ概況

放牧ノ場合

放牧地 放牧地個々ノ面積ハ普通二十町乃至百町内外ニシテ大規模ノモノ少キモノノ如ク概シテ地味比較的良好ナルモ蹄傷量相當多ク加之改良施設ヲ行ハザル久シキニ亘ルコトト探草ヲ兼ヌルヲ以テ年々荒廢シツツアリ野草ハ萱、姫笹、萩、躑躅、葛ヲ主トシ熊笹、ウツギ、蛙草、ヤマオ、センブリ、ヒイナ、アク花、岩切等モ之ヲ看ル

荆棘除去ノ目的ヲ以テ火入ヲ爲スモノヲ看ルモ極メテ少ク施肥其ノ他野草ノ改良ヲ目的トスル積極的事業ハ全ク之ヲ認メズ放牧地ノ設備ハ極メテ不完全ナルモノ多ク隔障物、監視小屋及畜舎等ノ設置ハ看ルベキモノナシ流水ハ多ク放牧地内ヲ流

ルルヲ以テ之ニ對スル施設ヲ要セザルモノトナス

放牧家畜 改良和種ニシテ大部分ハ牝牛ナルモ中ニ育成中ノ牡牛ヲ放牧ス年齡ハ二歳乃至十八歳頃迄ニシテ總數ノ五割乃至八割ハ仔付トス一放牧地ニ於ケル放牧頭數ハ四十頭乃至七十頭ナリ放牧中ニ於ケル傷害、斃死ハ殆ンド之ヲ認メズ

放牧方法 放牧期間ハ之ヲ二期ニ分ツ第一期ハ四月下旬乃至五月上旬ヨリ六月上旬乃至六月下旬ニ至リ第二期ハ九月下旬ヨリ十一月下旬ニ至ル間トシ七月上旬ヨリ九月中旬殊ニ土用ノ前後ニ於ケル酷暑中ハ朝夕ノ間ノミ放牧セラル夜間放牧ヲ爲スハ極メテ稀ニシテ大部分ハ晝間ノミノ放牧ニシテ放牧牛ノ監視ハ老幼又ハ婦女之ニ當リ放牧地ヘノ往還ニハ各畜主ニ於テ之ヲ管理ス輪換放牧ヲ認メザルモノ之ニ準ズル放牧ヲ看ルモノアリ

探草ノ場合

探草地 草生量ハ逐年減少ノ傾向ニ在リテ草種ハ前記放牧地ニ於ケルモノト殆ンド同様ナルモ放牧地ノ草生ニ比スレバ稍良好ト謂フヲ得ベシ火入ヲ爲スモノ稀ニシテ施肥ハ全ク之ヲ看ズ尙地勢一般ニ急峻ニシテ其ノ位置高ク灌溉、排水等ニ適セザルモノ多シ

探草方法 入會地ニ在リテハ葛及萱ノ採取ニ付テハ葛ノ山口及萱ノ山口ナル名稱ノ下ニ之ガ採取期日ヲ年々規定スルモノアルモ一般ニハ探草ニ關スル内部的規約等ヲ規定スルモノナシ飼料ノミヲ目的トスル乾草ハ多ク畦畔草ニ依リ探草地ノ生草ハ冬期以外ハ飼料及藁草トスルモノニシテ又乾草トシテ冬期ニ於ケル藁草ニ供セラル

收支計算

牧野利用ニ關スル經費ハ極メテ少ク又組合組織ニ依リ經營スルモノナク放牧料等ヲ徵收スルモノナキヲ以テ收支計算ヲ爲ス程度ニ至ラズ事狀斯ノ如クニシテ利用者ハ多ク其ノ勞力ヲ提供シテ牧野ノ維持ニ當ルモノナリ



## (四) 使用收益關係

部落有林野ノ一部ヲ從來ノ慣行部落ガ牧野トシテ利用シツアルモノニシテ部落有林野ノ統一未了ノモノ多シ共有ノ性質ヲ帶ビタル入會地ニシテ關係町村ニ分割シタルモノニ於テモ之ガ使用收益ヲ爲スハ當該土地ニ接近スル數部落ニ限定セララル事例ヲ看ル入會關係ノ解消セザルモノ尙相當アルモノノ如ク入會料等モ各地ニ依リ其ノ名稱ヲ異ニシ山手料、摘菜料、山手銀等ト稱セラレ現金ニ依ル授受ハ稀ニシテ普通玄米等ヲ以テス之ガ納入時期ハ年末ニスルモノ多ク或ハ最終納入期日ヲ限定スルモノアリ之等入會地ノ使用收益ニ當リテハ多少ノ規定ヲ設ケ柴草、薪ノ採取ハ之ヲ許スモ薪ノ採取ヲ禁ズルモノ、或ハ松ノ伐採ヲ禁ズルモノ、使用器具ヲ鎌、鉈ノミニ限ルト共ニ濫ニ山中ヘ刈置カザルコト等ヲ規定スルモノアリ入會期日(山ノ口ト稱ス)ハ地元部落ニ於テ之ヲ定メ關係部落ニ通知スルモノニシテ關係部落ハ八十八夜前十日或ハ夏至二十日前迄ニ地元部落ニ申請スル慣習アリ尙之等入會地ニ關スル處分ニ關シテハ燒畑ノ禁止ヲ爲スモノアルモ一般ニ特別ノ制限ヲ設ケズ公租公課ハ關係部落ノ戸數及地價ニ依リテ之ヲ負擔セシム

## (五) 調査地方ニ於ケル牧野利用ト他産業トノ關係

## イ 牛ノ飼育ト牧野利用

牧野利用地方タル城崎、出石、養父、朝來及美方五郡ニ於ケル牛ノ總頭數ハ約一萬八百頭ニシテ縣下總頭數ノ約一割ヲ占メ同生産頭數ハ約五千六百頭ニシテ縣下總生産頭數ノ約四割ヲ占メ美方郡ノ如キハ縣下ニ於テ最高位ニ在リ而シテ生産ハ縣全般トシテ最近漸次減少ノ傾向ニ在リ本縣ニ於ケル牧野ハ淡路地方ヲ除ケバ大部分牛ノ爲ニ利用セラルルモノト看做シ得ベシ次ニ前記五郡ニ於ケル農家百戸ニ對スル牛ノ飼養戸數ハ城崎郡十五戸、出石郡三十六戸、養父郡二十六戸、朝來郡五十戸、美方郡四十七戸ヲ示スモ牧野所在地タル農山村ニ於テハ殆ンド大部分ハ有畜農家ナリ而シテ牧野利用ト他産業トノ關係左ノ

如シ

## ロ 普通農業トノ關係

前記五郡ニ於ケル農家一戸當耕作反別ハ六反乃至一町ニシテ美方郡ヲ除キ水田反別多キモ牧野所在地方ノ山村ニ於テハ畑ノ反別遙ニ大ナルモノヲ看ル水田ニ於ケル二毛作モ割合普及シ農産物ノ主ナルハ米、麥、甘藷、馬鈴薯、漬菜等ニシテ諸産業中其ノ生産額ハ一乃至二位ニ在リテ畜力ノ利用、自給肥料、自給飼料等益々増加ノ傾向アルト共ニ畜牛販賣ニ依ル利益ハ農家經濟上重要ナル部分ヲ占ムルモノナリ

## ハ 養蠶業トノ關係

牧野所在地方ニ於ケル農家ノ七乃至八割ハ養蠶ヲ營ミ之ガ生産額モ諸産業中高位ニ在リテ桑園ハ水田、畑地ニ次ギ相當多シ從ツテ自給肥料ノ需要ハ漸次増加ノ傾向ニ在リ且勞力ノ分配等モ相當圓滑ニ行ハレ畜産トノ關係モ相當密接ナリ殊ニ城崎郡ノ如キハ畜牛飼料トシテ蠶沙ノ利用漸次普及セムトシツツアリ

## ニ 林業トノ關係

林産物價額ハ餘リ大ナラザルモ木炭ノ製造等ハ相當ノ額ニ達シ冬期ニ於ケル農山村住民ノ勞力分配ニ關係ヲ有ス而シテ牛ノ飼育トノ關係ハ牧野トシテ利用シ又ハ利用スベキ土地トノ關係ニ在リテ普通農業ニ於テ看ラルル如キ有機的關係ヲ認メズ

## (六) 牧野ニ關スル獎勵施設

牧野改善ニ關スル縣ノ獎勵施設ナク美方郡畜産組合ニ於テハ面積十町歩以上ノ牧野ニ對シ百圓以上ノ補助金ヲ交付シ又牧草種子ノ配布等ヲ行フモノナリ



# 鳥取縣

## 調査箇所

牧野名	種類	所在地	土所有地	經營者	利用區域	面積	放牧頭數
栗尾牧場	放牧地	東伯郡西郷村大字栗尾	村有	栗尾畜牛育成組	大字栗尾	一五、〇〇〇(見込)	牛 二〇
飯戸牧場	放牧地	西伯郡大山村大字飯戸	村有	大山村六部落ノ農事改良組合	大山村ノ中飯戸外三部落	六、四〇〇(臺帳)	牛 二〇〇
小原牧場	放牧兼採草地	日野郡日野村大字別所、小原	村有	日野村大字小原外二部落	同上	一三〇、〇〇〇(見込)	牛 二五〇
御机牧場	放牧地	日野郡米澤村大字御机	部落有	米澤村大字下蚊屋部落	下蚊屋部落及村外、縣外	一五〇、〇〇〇(見込)	牛 一三〇

## 一沿革

東伯、西伯兩郡ノ山間地方及日野郡ハ古來ヨリ牛馬ヲ放牧スル習慣アリタルモノニシテ就中日野郡南部地方ハ山林原野ヲ間ハズ極端ナル放牧ヲ行ヒ來リシモ伯耆ノ海岸及因幡地方ニ於テハ放牧スルモノ稀ニシテ周歲舍飼ヲ爲スノ習慣アリタリ然ルニ明治四十年二月牧場補助規程ノ發布ヲ看ルニ及ビ之等地方ニ亘リ四十一箇所ノ牧野設置セラレ之方面積ハ八千五百五十一町歩ニ達シタルモ其ノ後漸次荒廢或ハ廢止セララルルモノ等現ルルニ至レリ

西伯郡大山々麓一帯ノ山林原野ハ明治二十年頃軍馬補充用地トナリタル結果地元部落ニハ牧野利用面積ノ減少セラレタルモノ又ハ全ク之ヲ失ヒタルモノアリシヲ以テ畜産殊ニ馬産ハ衰頹ニ瀕セリ降ツテ大正十三年該補充部ノ廢止ヲ看タルモ設立當時ノ關係文書明確ヲ缺クアリ或ハ拂下價格ニ於テモ資力乏シキ農山村ニトリテハ相當困難ナルモノアリテ荒廢ニ委ネテ今日ニ至レリ部落有林野ノ統一前部落總有又ハ數部落共有タリシモノニシテ之等地元部落ニ依リテ放牧採草ニ利用セラレタルモノハ町村ヘ統一セラルルニ當リ入會ノ解消、分割行ハレタルモ牧野利用者ハ依然元關係部落民ニ限ラレタルヲ以テ此ノ間ニ於ケル變化ハ蓋シ僅少ナリ日野郡下ニ於テハ往年畜産組合ノ經營スル牧野アリタルモ多クハ經營難ニ陥リ個人ノ經營ニ移リ終ニ部落民ノ共同利用トナリタル事例ヲ看ル最近ニ在リテハ之等部落有地ハ多ク町村ニ統一セラレ町村條例ニ依リ之ガ貸付及使用ヲ許サレ居ルノ現況ナリ

## 二現況

### (一) 所在地、所有者ノ他

本縣ノ牧野ハ東伯、西伯、日野ノ三郡ニ大部分存在シ中國山脈ノ北部山麓及大山々麓ニ散在ス牛馬牧野總面積約三萬二百餘町歩ニシテ公有ニ屬スルモノハ總面積ノ七割一分ニ達シ私有地ハ約二割ニシテ殘餘ハ社寺有ニ屬ス而シテ放牧地ト採草地トノ面積ハ一對六ノ比ニシテ放牧地ニ於テハ立木面積稍大ナリ尙共同利用ニ依ル牧野ハ大部分町村有及部落有ニ屬スルモノナリ

### (二) 地勢、地味、氣候

中國山脈ノ北斜面ニ展開スル牧野ハ傾斜一般ニ急ナルモ大山々麓ニ存スル牧野ハ一般ニ緩漫ナリ平坦部ノ牧野ハ腐植土ヲ



以テ掩ハルルモ急斜面ノ牧野ハ花崗岩土ノ露出ヲ看ルモノ多シ例年十二月下旬ヨリ降雪ヲ看ル

(三) 經營及利用狀況

イ 經營者、利用者其ノ他

牧野經營者ハ從來ヨリ關係アリタル地元部落ニシテ任意組合ヲ組織シテ之ガ經營ヲ爲スモノアルモ大部分ハ組合ヲ組織セズ且町村直接牧野ノ經營ニ當ルモノナシ利用者ハ地元部落民ノ外ニ縣外及他町村住民ニシテ地元部落民以外ハ多ク牛馬商ニシテ家畜市場ニテ購入セルモノヲ預托放牧スルモノニシテ預托契約ハ地元部落民トノ間ノ個人契約ナリ  
 經費ノ賦課ハ放牧料ヲ以テシ組合ヲ組織スルモノニ在リテハ別ニ組合員ハ負擔金ヲ納付ス採草地ニ在リテハ組合組織ニ依ルモノナク之ガ利用ハ地元部落民或ハ數部落民ノ共同利用ニシテ之ニ要スル經費ハ極メテ僅少ナルモ部落民ノ平等負擔トセリ

ロ 事業ノ概況

放牧ノ場合

放牧地 放牧地個々ノ面積ハ十五町乃至百町内外ヲ普通トシ草生狀況一般ニ不良ニシテ反當收量僅ニ四十貫前後ノモノアルモ平均二百七十貫内外ナリ野草ハ萱及萩ヲ最モ普通トシ蕨、葛、ヒメザ、アザミ、ヨモギ、ヤエ、苜蓿等モ之ヲ看ル而シテ牧草ノ移植ハ多ク失敗ニ歸シタルモ野草改良ノ氣運ニ向ヒツツアリ天然ノ地形ヲ利用シ土壘、石壘及木柵ヲ看ルモ隔障物ハ不完全ナリ畜舎ノ設置ヲ看ルモノアルモ極メテ少ク監視小屋ノ如キ設備ハ皆無ト謂フベシ飲料水ハ多ク水田用貯水池乃至溪流ニ依リ特別ノ施設ヲ看ズ

放牧家畜 改良和種ヲ大部分トスルモ農耕馬ノ混牧モ亦行ハル放牧牛ハ仔付ノモノ多ク牡ハ一般ニ二歳未滿ノモノニシテ

放牧頭數ハ一放牧地ニ付二十頭乃至二百五十頭ナリ

放牧中ニ於テ家畜ノ外傷、墜死等ハ極メテ稀ナルモ極端ナル放牧ニ依リ運動激烈トナリ動モスレバ成熟期ヲ遅延セシムルモノアリ然シナガラ他面骨格堅牢ニシテ四肢強健、蹄質堅韌能ク勞役ニ堪ユ而シテ日野郡ニ於ケル晝夜間放牧ヲナス地方ニ在リテハ放牧中ノ幼牛ハ霧醉(地方名)ニテ斃死スルモノヲ相當看ル外蕪草ノ過食ニ依ル胃腸病或ハ慢性氣管支カタル等ヲ起スモノアリ

放牧方法 東伯、西伯兩郡ノ一部ヲ除キ多クハ晝夜間放牧ニシテ四月乃至六月ヨリ十月下旬乃至十一月月上旬ノ間ニ放牧シ此ノ間七、八ノ二箇月ハ休牧スルヲ普通トス東伯郡ノ一部地方ニ於テハ農繁期ノ晝夜間放牧ヲ爲スモノアリ放牧牛ノ監視ハ利用者間ノ申合ニ依リ月數回爲スニ過ギザルモ東伯郡下ニ在リテハ連日二人宛之ガ監視ヲ爲スモノニシテ一般ニ常置番ノ設置ハ之ヲ看ズ

採草ノ場合

採草地 荊棘除去ハ割合良ク行ハルルモ反當收量ハ二百七十貫内外ヲ普通トシ野草ノ種類ハ放牧地ノ野草ト殆ンド同様ナリ採草道路等ハ極メテ不完全ナルモノ多ク施肥、灌漑及排水等ハ全ク認メラズ家畜ノ飼料用乾草ハ畦畔草ヲ以テシ採草地ノ野草ハ生草ノ儘飼料兼厩肥トシ又乾燥シテ冬期ニ於ケル葶草トナス

採草方法 刈取回數等ハ地方ニ依リ極メテ區々ナルモ之ガ刈取開始ニ付テハ關係部落民毎年協議シテ決定スルヲ普通トシ特ニ數量ヲ限定スルコトナキガ如シ

收支計算

收支計算ハ概ネ不詳ニシテ一部地方ニ於テハ預托放牧ヲ看ルモ地元部落トノ個人契約ナルヲ以テ共同利用者ヲ一團トスル



收支計算ノ如キモノナシ唯東伯郡西郷村ニ於テハ放牧ニ關スル組合ヲ組織シ之ガ收支ヲ明カニシタルモノアリ

(四) 使用收益關係

現在各部落民ガ使用收益ヲ爲シツツアル牧野ハ從來ヨリ之ガ慣行アリタル土地ニシテ部落有林野統一ノ結果新ニ町村有トナリタルモノナリ之等牧野ノ使用收益ハ町村條例ノ規定スル範圍内ニ於テ放牧採草ノ慣行アリタル部落ニ於テ行ハルモノニシテ一般ニ採草地ハ使用許可ノ形式ニ依リ放牧地ハ貸付ノ形式ニ依ルヲ普通トシ十年ヲ以テ更新スルモノト之ガ期限ヲ定メザルモノトアリ使用料又ハ貸付料ハ牧野反別ニ應ジ使用收益者ヨリ平等ニ徵收スルモノト使用收益者各人ノ租稅負擔額ヲ標準トスルモノアリ町村有地ニ在リテハ放牧ノ頭數、時期、採草ノ時期、回数等ニ關スル制限ナキモ私有地ニ在リテハ多少ノ制限アルモノノ如シ

(五) 調査地方ニ於ケル牧野利用ト他産業トノ關係

イ 牛ノ飼育ト牧野利用

牛ノ飼養頭數最モ多キハ東伯郡ノ九千頭ニシテ西伯、日野ノ兩郡之ニ次ギ之等三郡下總頭數ハ縣下總頭數約三萬六千頭ニ對シ七割弱ヲ占メ同生産頭數ハ縣下生産總頭數約一萬一千頭ニ對シ六割強ヲ占ム而シテ之等ノ飼養生産ハ牧野利用ニ俟ツトコロ大ニシテ縣全般トシテ牛ノ生産ハ一進一退ノ狀勢ニ在リ

次ニ前記三郡ニ於ケル農家百戸ニ對スル牛馬頭數ハ日野郡ノ百五十九頭ヲ筆頭ニ東伯郡六十四頭、西伯郡五十九頭ヲ示スモ牧野所在山村ニ於ケル飼養頭數ハ遙ニ大ナル數字ヲ示スモノナリ牧野利用ト他産業トノ關係左ノ如シ

ロ 普通農業トノ關係

耕地反別ハ前記三郡ニ於テ農家一戸當約八反ニシテ水田ハ畑ノ約二倍ニ當リ町村農家ノ約八割ハ有畜農家ナリ從ツテ畜力

ノ利用、自給肥料ノ生産ト共ニ牛ノ販賣ハ之等農山村ニ於ケル農家ヲ裨益スル處大ナリ尙特種作物トシテ煙草及三椏ノ栽培相當盛ナリ

ハ 養蠶業トノ關係

往年養蠶ノ勃興ト共ニ桑園反別ノ増加ヲ看タルモ近年稍衰微セリ且婦女子ニシテ出稼スルモノ相當多數ニ上リ農業勞力ノ不足ヲ看ル又蠶沙ノ利用モ一部地方ニ看ラルルモ一般的ナラザル等畜産トノ關係密接ナルモノナシ

ニ 林業トノ關係

牧野トシテ利用セラレツツアル面積ハ約三萬町步ニシテ林野總面積ノ約一割五分ニ相當スルヲ看ル而シテ之等ハ總テ民有地ニ包含セラレ其ノ中公有地ニ屬スル牧野ハ公有林野ノ二割八分ニ相等シ公有地ニ於ケル土地利用區分ノ如何ハ牧野ト相當密接ナル關係アリ

(六) 牧野ニ關スル獎勵施設

縣ハ明治四十年二月牧場補助規程ヲ公布シテ牧野面積ノ廣狹及規模ノ大小等ニ應ジ補助金ヲ交付シテ牧野ノ設置ヲ勸奨シタルモ大正元年以降ニ於テハ該補助金ノ交付ヲ看ズシテ今日ニ至レリ郡畜産組合ニ於テモ牧場補助規程、埋草審ノ設置獎勵規程等ヲ設ケ一面畦畔草ノ改良ヲ獎勵シテ牧野ノ改良維持又ハ飼料ノ改良ヲ行フモノアリ尙乾草品評會ハ最近日野郡ニ於テ之ヲ看タリ



# 島根縣

## 調査箇所

牧野名	種類	所在地	土地所有別	經營者	利用區域	面積	放牧頭數
船通山牧場	放牧地	仁多郡島上村字竹崎	私有	仁多郡畜産組合	仁多郡島上村、横田村	三、〇〇〇、〇〇〇(見込)	馬牛 二五三〇〇
金川牧場	放牧兼採草	仁多郡八川村大字	私有	字金川	字金川、其ノ他隣接町村	三六〇、〇〇〇(臺帳)	牛 一二〇
中組下組放牧地	放牧兼採草	飯石郡須原村大字	私有	土地所有者ノ共同經營	大字佐見中組、下組	三五、六〇〇(臺帳)	牛二四一二九
三瓶牧畜組合放牧場	放牧兼採草	飯石郡志々木村大字角井、簸川郡山口、安濃郡佐比賣村	國有、村有及私有	三瓶牧畜組合	志々木村大字角井、山口村大字山口、佐比賣村	四、〇〇〇、〇〇〇(見込)	牛馬一、六四九(牛ヲ主トス)

## 一 沿 革

藩制時代ノ牧野狀況ハ詳カナラザルモ出雲國ハ寛永十五年松平直政之ヲ領シ大ニ牛馬ノ改良ヲ圖リシ事實ヨリシテ放牧ハ相當行ハレタルモノト看ルベク尙本時代ニハ到ル所放牧自由ナリシヲ以テ蕃殖上大ナル便宜アリシモノノ如ク當時ノ放牧地方ハ鐵山、小八川、板根、金川ニシテ其ノ面積凡ソ三千町ニ及ビ其ノ周圍ニ柵ヲ設ケ或ハ天然ノ山險ニヨリ境域トシ放牧期間ハ春秋二期ニ分チ春期ハ八十八夜十日前ヨリ半夏生迄、秋期ハ彼岸ヨリ十一月下旬迄トセリ而シテ夏季ハ山蛇、刺牛風ノ

## 二 現 況

害甚シキニ依リ之ヲ避クル爲舍飼セリト謂フ維新後ハ放牧方法ニ於テハ殆ンド從來ノ如クナルモ山野ニ於ケル自由放牧ノ制ハ漸次壞レ私有地ハ次第ニ貸借ノ形式ニ變化シ尙經營主體ヨリ看ル時ハ畜産組合經營、部落經營又ハ個人ノ共同經營等ニ依リ利用セララルモノ漸次増加スルニ至レリ

### (一) 所在地、所有者ノ他

本縣ニ於テ最モ牧野ニ富メルハ隱岐島及中國山脈ニ接スル能義、仁多、飯石等ノ諸郡ノ山間部ニシテ就中仁多郡ニ最モ多ク面積七千五百町ニ達スト稱セラル隱岐島ニハ古來牧畑ト稱セラルル特殊ノ放牧行ハルルモ暫ク之ヲ措キ縣下一般ノ牧野ノ概況ヲ述ベムニ放牧地ハ山林ヲ爲セル所多キモ安濃、飯石、簸川三郡ニ跨ル三瓶放牧場ノ如キハ廣漠タル原野ナリ本縣ニ於ケル牛馬牧野面積約四萬二千三百町中放牧地二萬六百町、採草地二萬一千七百町ニシテ放牧及採草ニ利用セララルル面積ハ略相等シ而シテ放牧總面積ニ對シ私有地ハ六割弱、國有地三割二分強、公有地七分強ニ當レリ即放牧地ハ私有ニ屬スルモノ過半ヲ占メ國有ニ屬スルモノ之ニ次グモ其ノ大部分ハ三瓶山附近ニ集中セリ公有地ニシテ放牧ニ利用セララルモノハ極メテ少シ

次ニ採草地ニ在リテハ私有ニ屬スルモノ七割一分弱、公有ニ屬スルモノ二割六分強ニシテ其ノ他ハ國有、社寺有ニ屬スルモノナリ山間ニ於テハ田一反ニ付若干ノ採草地附屬シ田ト共ニ賣買貸借セララルラ普通トセリ

### (二) 地勢、地味、氣候

牧野ハ中國山脈ニ沿ヒ相當急傾斜ノ地多キモ三瓶山麓ニ於ケルモノハ平坦開濶ナリ縣東半ノ牧野ハ概シテ地味良好ナリ山



間高地ニ存スルモノハ夏季冷涼ナルモ冬季ハ概シテ積雪深シ梅雨期ハ比較的短キモ晩夏ヨリ初秋ニ掛ケテ降水量多シ

### (三) 經營及利用狀況

#### イ 經營者、利用者其ノ他

經營者ニハ畜産組合、牧畜組合、部落、個人共同等アリ畜産組合、部落等ニテ經營セル場合ニハ多クハ私有地ヲ賃借シ之ガ利用者ハ畜産組合經營ニ在リテハ組合員、部落經營ニ在リテハ地元部落民ヲ主トス牧畜組合經營ハ三瓶放牧場ニ之ヲ看ルモ舊來ノ慣行ニ依リ國有地、村有地、私有地等ヲ放牧ニ利用シ居ルモノニシテ之ガ利用者ハ放牧ノ慣行アリタル地域内ニ於ケル組合員ヲ主トス個人共同經營ノモノニ在リテハ各自ノ所有土地ヲ持寄り共同放牧ヲナスモノニシテ其ノ他自己ノ土地ニ飼養家畜ヲ放牧スルハ一般ニ行ハルル所ナリ一般ニ放牧ニ關シテハ放牧期間等ヲ口約ニテ取決ムルノミナルモ組織的經營ヲナスモノニ於テハ三瓶牧畜組合ノ如ク定款及放牧規程ヲ定メタルモノアリ尙舊來ノ慣行ニ依リ公有地、私有地ノ區別ナク勝手ニ放牧スルモノ少カラズ放牧料ハ調査箇所ニ於テハ年額三十錢乃至四圓ヲ徵收セルモ時ニ物納ニ依ルモノアリ

#### ロ 事業ノ概況

##### 放牧ノ場合

放牧地 放牧専用又ハ採草兼用ニシテ個々ノ面積ハ區々ニシテ一定シ難シト雖調査箇所ニ於テハ三十五町乃至四千町ニシテ縣全般トシテハ五、六十町乃至三百町ノモノ最モ普通トセル草生地ハ芝ヲ主トシ笹、萩、葛及栗、櫟等雜木ノ稚樹ヲ混ジ立木地ニ於テハ放牧畜ハ雜木ノ若芽ヲ採食ス放牧地ニハ立木地多ク又急峻ナル所少カラズ自然放牧ニ利用セルル土地ハ局限セラレ漸次荒廢シツツアルモノノ如シ火入ハ私有地ニ放牧スル場合ニハ立木ノ關係上土地所有者ノ承認ヲ得ルコト難ク又一般ニ火入許可ヲ得ルコト困難ニシテ行ハレズ施肥等ノ草生改良ノ手段モ行ハレザルヲ普通トセリ放牧地ノ設備トシテハ

大規模組織的ノモノニ在リテハ監視小屋、飲水場等ヲ設備スルモノアルモ一般ニハ斯ノ如キ設備ナク唯耕地ニ面セル部分若ハ要所ニ木柵、土壘、切取等ヲ以テ區劃ヲ設ケルノミ

放牧家畜 牛馬混牧ナリ大多數ハ牛ニシテ主トシテ改良和種ニ屬ス蕃殖牝牛ノ大多數ハ夏秋ノ間放牧セルルモノニシテ種牡牛及二歳牡牛ハ牝ト混牧セルルコトアルモ其ノ他ノ牡牛ハ一般ニ牧放セラレズ但シ時ニ放牧地内ニ一區劃ヲ設ケ牡牛ヲ放牧スルモノアリ牝ハ母牛ト共ニ放牧セルルヲ普通トス牧野所在地ノ牛ノ大多數ハ放牧期間中ハ放牧ニ依リ飼養セラルルモ馬ハ使役ノ關係上牛ニ比シ放牧頭數ノ割合少ク放牧頭數ハ各牧野ニ依リ異ナルモ二十四頭乃至千六百頭ナリ放牧家畜ノ状態ハ運動、日光充分ニシテ又風雨ニ曝露セラレ強健ナル發育ヲ遂グト稱セラルルモ期間中全然放牧ノミニ依ルモノハ削瘦シ秋期ノ放牧ニ於テ殊ニ甚シ春期放牧ノ末期及秋期放牧ノ初期ニ在リテハ虻、牛虱等ノ被害相當大ナルモノアリ大規模ノ牧野ニ在リテハ往々行方不明又ハ斃死ヲ見ルコトアリ又放牧初期ニ於ケル二歳牡牛ハ殊ニ疾病ニ患リ易シト謂フ

放牧方法 放牧期間ハ春ハ八十八夜ヨリ半夏生迄、秋ハ彼岸ヨリ十一月末迄ヲ普通トシ盛夏ノ候ハ舍飼シ採草ヲ行ヒ厩肥ヲ製造スルモノトス牛ハ放牧期間ヲ通ジテ放牧セルルモノ多キモ小規模ノモノニ在リテハ晝間ノミ放牧スルモノアリ一般ニ輪換放牧ハ行ハレズ組織的經營ノモノニ於テハ專任ノ監視人ヲシテ放牧牛馬ヲ巡視セシムルモ普通放牧者各自ニ又ハ交代ニ放牧牛馬ヲ巡視シ時々食鹽ヲ給與ス

##### 一 採草ノ場合

採草地 火入ヲ行ハザル爲又ハ金肥ノ利用増加、勞力ノ不足、轉換等ニ基キ採草漸次廢レ採草地ニハ荆棘、雜木等ヲ生ジ漸次荒廢シツツアルモノノ如キモ之ガ管理改善ニ付テハ何等ノ方法モ講ゼラレズ設備ノ看ルベキモノナシ

採草方法 採草ハ普通畦畔又ハ耕地ニ接スル専用採草地ニ行ハルルモ部落ヨリ遠隔ナル山野ヨリハ自由ニ採草スルノ慣習



アリ夏期休牧期間ニ殊ニ盛ニ行ハル専用採草地ヨリ採取セラレタルモノハ品質良好ニシテ飼料トセラルルモノ多キモ山野ヨリ採取セルモノハ灌木其ノ他ヲ混ズルコト多ク主トシテ厩舎ニ投入シ直接厩肥ノ原料トセラル採草ノ運搬ハ牛馬背ニ依レリ

收支計算

一般ニ牧野經營ニ關スル收支計算ハ明カナラズ借地料、監視人給料等ヲ要スルモノニ在リテハ之等經費ヲ放牧料ノ形式ニテ放牧者ニ負擔セシメ設備修繕ハ多クハ放牧者タル地元民ノ出役ニ依リ之ニ要スル材料ハ放牧地内ヨリ伐採シ又ハ持寄材料ニ依ル

(四) 使用收益關係

牧野經營者ト土地所有者トヲ異ニスル場合ニ在リテハ借地料ヲ支拂ヒテ放牧ニ使用スルモノアリ又三瓶牧畜組合ノ如ク舊來ノ慣行ニ依リ無償ニテ使用シ居ルモノアリ使用期限ニ付テハ從來ヨリ放牧ニ使用セラレタル地多キヲ以テ無期限ナルコト多ク公租公課ハ固ヨリ土地所有者ノ負擔ナルモ柵、監視小屋等ノ修繕ハ經營者ノ負擔トセリ使用收益ノ制限トシテ放牧地内ノ立木ハ土地所有者ニ處分權アルモ修繕等ニ要スル材料ハ場内ヨリ伐採シ得ラルル場合多シ

(五) 調査地方ニ於ケル牧野利用ト他産業トノ關係

イ 牛ノ飼育ト牧野利用

縣下ニ於ケル牛ノ飼養總頭數約五萬八千頭中約三割一分ニ相當スル約一萬八千頭、生産總頭數約一萬二千頭中約二割九分ニ相當スル約三千五百頭ハ仁多、飯石、簸川、安濃ノ四郡ニ飼養生産セラル尙各郡ニ於ケル生産狀況ヲ見ルニ縣下生産總頭數ニ對シ仁多郡ニ於テハ五分弱、飯石郡ニ於テハ一割一分強、簸川郡ニ於テハ五分強、安濃郡ニ於テハ八分弱ヲ生産スルモノナリ

次ニ各郡ニ於ケル農家戸數ニ對スル牛ノ飼養戸數ノ割合ハ仁多郡ニ於テハ七割三分強、飯石郡ニ於テハ八割一分強、簸川郡ニ於テハ一割九分弱、安濃郡ニ於テハ六割七分強ニ相當スルモ近年飼養生産頭數共多少減少ノ傾向アリ

以上各郡ノ内簸川郡ヲ除キテハ農家ノ大部分ハ牛ヲ飼養シ生産ヲ行ヒ其ノ收入ハ農家現金收入ノ主要ナル部分ヲ占メ飯石、仁多ノ二郡ハ生産地トシテ名アリ仁多郡ハ殊ニ古來ヨリ良牛ヲ産ス而シテ牛ハ盛夏ノ候ヲ除キ夏秋ノ間ハ大部分放牧セラレ其ノ飼養生産ハ牧野ニ俟ツ所大ナルモノアリ尙牧野利用ト他産業トノ關係左ノ如シ

ロ 普通農業トノ關係

調査地方ニ於ケル農家一戸當耕地面積ハ田九反乃至一町、畑一反乃至四反一畝ニシテ山間部ニモ拘ラズ水田比較的多シ主要農作物ハ米ニシテ其ノ他麥、大豆等栽培セラル冬季寒冷ニシテ積雪多キヲ以テ二毛作ハ一般ニ行ハレザルモ僅ニ紫雲英ヲ作り飼料及綠肥ニ用フルモノアリ牛耕盛ニ行ハレ又厩肥ノ使用盛ニシテ農産殘滓物ハ飼料トシテ利用サレ牛ト普通農業トハ極メテ密接ナル關係アリ生産額ニ於テハ農産ハ諸産業中第一位ヲ占ム

ハ 養蠶業トノ關係

養蠶ハ一般ニ行ハルルモ特ニ盛ナリトハ謂ヒ難ク畜産トハ特ニ顯著ナル關係ナシ

ニ 林業トノ關係

牧野ハ山間部ニ多ク從ツテ山林トハ密接ナル關係ヲ有シ殊ニ放牧地トシテハ山林ヲ利用スルモノ多キモ之等山林中ニハ私有ニ屬スルモノ少カラズ近時交通ノ發達ト共ニ山林ノ價值高マリ牧野經營者ト土地所有者トノ利害關係相反スル場合アリ造林ノ爲牧野トシテノ利用面積多少縮少セラレツツアルモノノ如ク又火入等モ往時ニ於ケルガ如ク自由ナラズ利用上不便ヲ感ジツツアルモノアリ



(六) 牧野ニ關スル獎勵施設  
 縣ハ牧野ニ關スル獎勵施設ヲ有セズ

岡山縣

調査箇所

牧野名	種類	所在地	土有別地	經營者	利用區域	面積	放牧頭數
井原牧場	放牧地	阿哲郡千屋村大字	村有	井原牧場使用組	井原部落	三六、三〇七(實測)	牛 三〇〇
大井野牧場	放牧地	阿哲郡上刑部村大字大井野	村有	大井野牧場組合	大井野部落	六五、三〇〇(實測)	牛 五三〇
浦牛奥牧場	放牧地	眞庭郡新庄村大字浦牛奥	村有	浦牛奥牧場組合	浦牛奥部落	一六、六三〇(實測)	馬牛 一〇七
奥津川西牧野	放牧兼採草地	阿哲郡奥津村大字奥津川西	村有	奥津村大字奥津川西小字細田部落	同村同字細田部落	四、二五八(實測)	牛 六七

沿革

延曆三年備前長島ニ牛馬ノ牧場ヲ設置セル旨桓武記ニ記載シアルニ徴スレバ同島ハ往昔ヨリ著名ノ牧場ナリシモノノ如キモ明治四年廢藩ノ後全廢セラレ今ヤ昔日ノ俤ヲ留メズ又元治年間美作眞島郡菅谷村ニ面積約千町步周圍三里墾ヲ繞ラシ柵ヲ

結ビ五ヶ所ニ區劃シテ數百ノ短角牛ヲ放牧シタル大杉牧場ノ設置ヲ看タルモ冬期ノ飼養ニ苦ミ前述ノ長島牧場ニ移シ或ハ兒島郡下津井村釜島官林ニ放牧スルニ至リ終ニ世ニ知ラザルニ至レリ

明治十三年美作勝北郡馬桑村ニ四百町步ニ亘ル馬桑村牧場ノ設置ヲ看短角牛及南部馬ノ放牧ヲ行ヒタルモ失敗ニ歸シ現在ハ附近民有牛馬及他地方ノ預托牛放牧セラル降ツテ明治十六年資金四千圓ヲ政府ヨリ借受ケ美作西々條郡富東谷村ニ梨木原牧場ヲ設置セル者現レタルモ之亦失敗ニ歸セリ其ノ後勸農局ヨリ内國種、短角種牡牛、デヴォン種牡牛ヲ借受ケ放牧事業ノ經營ヲ爲スモノ輩出セルモ殆ンド終ヲ全フセルモノナカリキ

如斯本縣ニ於ケル牧野ハ昔日ニ於テ既ニ牧場トシテノ形態、設備ヲ備ヘタルモノアリシモ之等牧場ノ廢止後ハ一層自由放牧ノ趨勢ヲ助長シ耕地ニ柵ヲ繞ラシ各自附近ノ山林原野ニ於テ放牧採草ヲ爲スニ至レリ而シテ之ガ舊慣ノ尙存續スル地方アリテ當時ニ於ケル慣行ヲ窺知スルコトヲ得ベシ然ルニ輓近各種産業ノ勃興、推移ト共ニ大面積ヲ擁シタル牧野ハ漸次十町步内外ノ小規模牧野ニ推移セムトスル傾向ニ在リ

二 現況

(一) 所在地、所有者其ノ他

牧野ハ主トシテ中國山脈ノ南斜面ニ位スル美作及備中北部ニ多ク阿哲、眞庭、苦田ノ三郡ハ本縣牧野ノ大部分ヲ包含ス本縣ニ於ケル牛馬牧野總面積ハ約十萬四千町步ニシテ之ガ所有者別面積ノ割合ハ公有地ノ四割九分ヲ最高トシ私有地四割七分、國有地ハ三分ニシテ他ハ社寺有地トス部落有林野ノ統一狀況ヲ看ルニ眞庭郡ハ全部、阿哲郡ハ七割六分、苦田郡ハ八割六分ヲ了シ縣全般トシテハ統一濟面積ハ約十萬町步ニシテ統一未濟ニ屬スルハ約三萬四千町步ニシテ全公有林ノ約二割ニ過



ギザル狀況ナルヲ以テ本縣ニ於ケル放牧採草地ノ大部分ハ村有ニ屬スルモノト推知セラレ

次ニ入會地ノ整理ハ眞庭郡ハ之ヲ完了シ阿哲及吉田兩郡ハ各五割及七割ノ整理ヲ見尙縣ノ整理方針トシテ入會地ニ對シテハ其ノ權利ノ持分ニ依リ町村別ニ實地ノ分割、解消ヲ行ハシメ既ニ約二萬五千町歩ヲ整理シ整理未濟面積ハ約六千町歩ヲ殘スニ過ギザルヲ以テ本縣ニ於ケル入會地ノ整理ハ相當進捗シ居ルモノト認メラル

(二) 地勢、地味、氣候

中國山脈ノ南斜面ヲ占ムル地方ノ牧野ハ地勢一般ニ急峻ノ所多キモ放牧地内ニハ局部的ニ平坦部ヲ有ス採草地ハ放牧地ニ比シ傾斜概シテ急ナリ溪流放牧地内ヲ流ルルモノ多キモ採草地ハ灌溉ニ不適當ナルモノ多シ地味比較的良好ニシテ雨量一般ニ多ク殊ニ晩秋ハ乾草調製ニ影響スル所アリ

(三) 經營及利用狀況

イ 經營者、利用者其ノ他

經營者ハ主トシテ從來ノ慣行ニ依ル部落ニシテ之ガ利用者ハ當該關係部落住民タリ牧野ノ經營ニ當リテハ部落住民全部又ハ部落住民中牛馬飼養者ヨリ構成セラレル牧野使用組合等ノ如キ任意組合ヲ以テスルモノヲ看ル組合組織ニ依ラザルモノニ在リテモ部落内ノ團結相當強固ナルモノアルヲ以テ其ノ經營、利用ニ當リテハ組合組織ノ場合ト相似スルモノアリ  
經費賦課ハ組合員ノ持株ニ按分スルモノト組合ヲ組織セザルモノニ在リテハ實際利用者ト然ラザル者トニ付其ノ割合ヲ異ニシテ徵收スルモノトアリ國有林野中現在使用面積ハ約三千町歩ニシテ之ガ利用ハ該林野所在地元部落民ノ共同利用ナリ昭和二年ニ於ケル縣ノ調査ニ依レバ牧野ヲ共同利用スル團體數ハ十九團體ニシテ其ノ利用面積ハ約一千五百町歩放牧牛馬頭數約二千頭ヲ示ス

ロ 事業ノ概況

放牧ノ場合

放牧地 個々ノ面積ハ六百町内外ノモノアルモ全般的ニハ十町内外ノ小規模ノモノ漸次増加ノ趨勢ニ在リ草生狀況ハ一般ニ良好ナラズ近年更ニ荒廢ノ傾向ヲ示シ雜木林ハ放牧地域内ニ相當繁茂シ居ルモ放牧ニ支障ヲ來ス程度ニアラズ火入ハ害蟲驅除ノ目的ニテ行ハル最近野草改良ノ目的ヲ以テ白萩、「レッドトップ」等ノ移植ヲ試ミル所アリテ白萩ハ相當ノ成績ヲ擧ゲツツアリ一般野草トシテハ萱、ノボシ、赤萩、笹、蕨等トス尙隔障物ハ木柵ニ鐵線ヲ繞ラスモノ或ハ土壘ヲ普通トシ監視小屋等ノ設置ハ極メテ稀ニシテ且不完全ナルモノ多ク又特ニ給水設備ヲ爲スモノナシ

放牧家畜 改良和種ニシテ牝牡混牧ナルモ牝牛ハ二歳迄ヲ普通トシ牝牛ハ大部分仔付ニシテ七歳乃至八歳ノモノ最モ多ク十六歳前後ヲ最高トス牛ト共ニ馬ノ混牧ヲ爲ス地方アリ一放牧地ニ於ケル放牧牛頭數ハ放牧全期ヲ通ジテ百頭乃至五百頭ニ達シ縣ノ北部一帯ニ位スル放牧地ニ於テハ一般ニ放牧頭數多シ放牧中往々轉落死傷スルモノ、逸走、盜難等ヲ看ル外霧醉ニ罹ルモノアルモ放牧セル牛馬ハ一般ニ被毛ニ光澤アリ四肢強健トナリ性質又溫順トナル

放牧ノ方法 放牧期間ハ之ヲ二期ニ分チ第一期ハ五月上旬ヨリ七月下旬迄トシ第二期ハ九月上旬乃至下旬ヨリ十一月上旬乃至十二月上旬迄ニシテ兩期ヲ通ジテ放牧期間ハ百三十日乃至百七十日内外トス而シテ放牧開始前ハ各自附近ノ山野ニ放牧シ八月ハ舍飼スルモノニシテ尙放牧中農耕又ハ氣腫疽ノ豫防注射等ノ爲一時休牧スルコトアリ放牧家畜ノ監視ニ當リ常置番ヲ置クハ稀ニシテ各自方月數回自己ノ家畜ト共ニ他ノ家畜ヲ見廻ル程度ナリ放牧家畜ノ標識モ稀ニ之ヲ爲ス所アルニ過ギズ

採草ノ場合

採草地 草生量ハ近年減少ノ傾向ニ在リテ吉田郡奥津村ニ於ケル試驗成績ヲ看ルニ大正十三年頃ニ於テ食草、不食草、樹



木類ヲ合シテ一反歩當平均約百七十貫内外ナリシモ昭和二年ニ至リ約百貫内外ニ減少セルモ食草量ハ漸次増加シツツアリ阿哲郡地方ニ於テハ隔年刈ノ採草地ニ在リテハ反當約二百五十貫乃至三百貫ニシテ毎年刈ニ在リテハ周年ニ於テ約百五十貫内外トス

採草方法 刈取期間ハ一定セルモノナク七月上旬ヨリ九月上旬ニ至ル間ニ刈取ルヲ普通トス而シテ採草ニ關シテハ利用者間ニ於テ特ニ内部的規約等ヲ定ムルモノナシ飼料用乾草ハ畦畔草ヲ以テシ採草地ノ生草ハ冬期ニ於ケル葦草、乾草トスル外一部生草ノ儘飼料ニ供ス

收支計算

任意組合組織ヲ以テ牧野ノ經營ニ當ルモノニ在リテモ之ガ收支ハ一般ニ明確ヲ缺ク收入ノ最モ主要ナルハ放牧料ニシテ臨時收入トシテハ牧野修理ニ當リ組合員ヨリ徴收スル負擔金トシ此ノ外ニ縣費補助ヲ受クルモノアリ支出ノ主ナルモノハ賃借料乃至使用料等ニシテ常置番ノ給料ヲ支出スルハ極メテ稀ナリ牧野修理等ニ當リ現金支出ヲ看ルハ稀ニシテ多クハ利用者ノ勞力ヲ提供スルモノトス

(四) 使用收益關係

部落有林野統一町村ニ於テ町村條例ノ存スル町村ニ在リテハ該條例ニ依リテ牧野ノ貸付或ハ使用許可ヲ爲スモノニシテ條例存セザル町村ニ在リテハ部落有財產統一條件ニ依リテ牧野ノ使用收益ヲ行ハシム而シテ牧野ニ關スル公租公課ハ町村之ヲ負擔シ使用收益ハ主トシテ從來ノ慣行アル關係地元部落住民ノ共同利用ニ依リテ行ハルル外慣行ナカリシ部落ガ新ニ使用收益權ヲ得タルモノアリ尙使用收益ニ關スル内容ヲ看ルニ村條例乃至部落有林野町村統一條件中ニハ明カニ放牧地ナル字句ヲ用ヒザルモノ或ハ採草區ヲ放牧地ト採草地トニ分チ各貸付又ハ使用ニ關スル條件ヲ區別スルモノアルモノヲ以テ更新スル

ハ一般ニ共通スル所ナリ而シテ採草地ニ對シテハ元所有部落民ニ限り無料ニテ利用セシムル外一部地方ニ於テハ分割使用ヲ試ミタルコトアリシモ弊害ヲ認メ現在ハ部落單位ノ貸付ニ改メタルモノアリ

(五) 調査地方ニ於ケル牧野利用ト他産業トノ關係

イ 牛ノ飼育ト牧野利用

本縣ニ於ケル家畜ノ主ナルモノハ牛ニシテ牛ハ昭和三年末現在ニ於テ約九萬五百頭同生産約一萬四千頭ニ達ス之等ヲ郡別ニ看レバ阿哲、眞庭、苦田ノ三郡ハ牛ノ飼養生産最モ多ク三郡ニ於ケル飼養頭數ハ約三萬頭ニシテ縣下飼養總頭數ノ約三割二分ニ相當シ生産頭數ハ約七千七百頭ニシテ生産總頭數ノ五割五分ニ相當ス尙阿哲、眞庭及苦田三郡下ノ牧野所在地方ニ於ケル總戸數ノ八乃至九割ハ農家ニシテ農家ノ八乃至九割ハ牛馬ヲ飼養シ農家百戸ニ對スル牛ノ飼養戸數ハ阿哲郡八十一戸、眞庭郡六十六戸、苦田郡六十二戸ニシテ農家百戸ニ對スル畜牛頭數ハ阿哲郡ノ百七十五頭ヲ最高トシテ眞庭郡百一頭、苦田郡九十五頭ノ割合ヲ示ス之等ノ狀況ヨリ看テ調査地方ハ縣下ニ於ケル牛ノ主要生産地ニシテ總戸數ノ大部分ハ牛飼育農家ナリ他面利用牧野ノ大部分ハ此ノ地方ニ散在シ牛ノ飼育ト牧野利用トノ關係最モ密接ナルモノアリ而シテ牧野利用ト他産業トノ關係左ノ如シ

ロ 普通農業トノ關係

畜産ト農業トハ自給肥料ノ遞増、畜力利用ノ普及等ニ依リ密接ナル關係ヲ保チ之ニ加フルニ牛ノ飼育販賣ハ農家經濟上重要ナル地步ヲ占ム

農家一戸當耕作反別ハ約一町歩内外ニシテ自作農家一般ニ多キヲ看ル水田ハ一毛作ヲ普通トシ畑ハ三毛作ニ及ブ麥作ハ微不至タルモ豆類、蔬菜ノ栽培ハ相當盛ニシテ此ノ外ニ煙草及飼料用作物ノ栽培ヲ看ルモ一部地方ニ限局セラレ居ルノ現況ナリ



尙特種ナル牛ヲ除キ一般農家ノ購入スル濃厚飼料ハ極メテ微々タルモノニシテ殆ンド自給自足ノ現況ニ在リ

ハ 養蠶業トノ關係

養蠶ハ他ノ諸産業ニ比シテ其ノ生産額極メテ少ク一般ニ採肥及勞力ノ見地ヨリ牧野利用上密接ナル關係ナシ

ニ 林業トノ關係

本縣北部ハ無立木地面積ノ大部分ヲ占メ居リタルモ近年林業經營普及シ杉、櫟、扁柏ノ植栽進捗シ造林ニ依ル原野ノ減少相當大ナルモノアリ林野產物ハ相當莫大ナル價額ニ達スルモ其ノ受クル利益ハ町村又ハ町村一部階級ノ人ニ限ラレ大多數ヲ占ムル小農ノ直接受クル利益ハ大ナラザルモノノ如シ

尙本縣北部ニ於ケル牧野ノ大部分ハ既ニ町村ニ統一セラレ或ハ統一ノ過程ニ在ルモノニシテ之等公有林野ノ利用區分ニ付テハ紛糾ノ跡アリ

(六) 牧野ニ關スル獎勵施設

縣ハ大正十一年十二月縣令第六十八號ヲ以テ畜產獎勵規定ヲ設ケ牧野ニ關スル獎勵事項ヲ規定シ大正十二年度以降昭和四年度ニ至ル七箇年間ニ於テ二萬一千五百三十八圓五十錢ノ獎勵金ヲ交付シ以テ牧野ノ改良ト之ガ普及トヲ圖レリ尙郡畜產組合ニ於テモ畜產獎勵ノ項ヲ看ルモ之ガ實績ヲ舉ゲツツアルモノ極メテ少ク唯牧野經營ニ關シ部落實行組合ヲ組織セシメ之ニ當ラシムベク勸奨シツツアリ

廣 島 縣

調 査 箇 所

牧野名	種類	所在地	所有別地	經營者	利用區域	面積	放牧頭數
下布野放牧地	放牧地	雙三郡布野村大字下布野	村有	特ニ經營者ト認ムベキモノナシ	大字下布野	三、八〇〇(實測)	馬牛約二〇〇—二五〇
毛無牧場	放牧兼採草地	比婆郡上高野山村大字和南原、大字新市	村有及	特ニ經營者ト認ムベキモノナシ	大字新市、大字和南原ノ一部	一、五〇〇、〇〇〇(見込)	馬牛一〇〇—二七〇
小奴可牧場	放牧地	比婆郡小奴可村大字小奴可	村有	大字小奴可	大字小奴可、大字加谷	九四、四二二(實測)	馬牛二六〇—二一〇
京山牧場	放牧地	神石郡古川村京山	私國有及	神石郡畜產組合	古川村、高光村	三、六二六(見込)	牛四六

一 沿 革

本縣ニ於ケル牧野ノ沿革ハ之ヲ詳カニスルコト能ハズト雖古來山間地方ハ畜牛ノ飼養盛ニシテ自由ニ山野ニ放牧シタルモノノ如ク今ヲ去ル約三十年前迄ハ山間ノ耕地ニ繞ラスニ木柵ヲ以テシ山野ノ大部分ハ放牧地ノ如キ觀ヲ呈セリト謂フ現在山間僻地ニハ尙牧柵ノ耕地周圍ニ殘レルヲ看舊來ノ慣行ニ依リ放牧セラルルモノ少カラザルモ近時縣ノ牧野獎勵施設ト相俟チテ之ガ改善ニ關シ民間ノ自覺スル所トナリ周圍ニ木柵、土壘等ヲ繞ラシ組織的ニ經營セラルル牧野漸次増加スルニ至レリ



## 二 現 況

六〇

### (一) 所在地、所有者其ノ他

本縣ニ於ケル牧野ハ比婆郡、神石郡、雙三郡、山縣郡等中國山脈並縣東部ノ山間ニ多ク就中比婆郡ハ放牧面積二萬町ト稱セラル放牧地ハ山林ニ屬スルモノ多シ而シテ本縣ニ於ケル牧野總面積ハ約五萬六百町ニシテ内放牧地約二萬九千町採草地約二萬六百町ナリ放牧地ハ私有ニ屬スルモノ最モ多ク牛馬放牧總面積ノ七割二分弱ヲ占メ其ノ他公有ニ屬スルモノ二割三分強ニシテ國有ニ屬スルモノハ僅ニ五分強ニ過ギズ尙社寺有ニ屬スルモノアルモ極メテ僅少ナリ而シテ國有地ノ放牧ニ利用セララルモノノ過半ハ神石郡ニ在リ

次ニ採草地モ放牧地同様私有ニ屬スルモノ最モ多ク全面積ノ七割一分弱ヲ占メ其ノ他公有ニ屬スルモノ二割七分弱、社寺有ニ屬スルモノハ僅々三分弱ニ過ギズ

### (二) 地勢、地味、氣候

牧野ニ富メル地方ハ山岳連亘シテ地勢概シテ急峻ニシテ地味普通ナリ夏季ハ比較的冷涼ナルモ時ニ最高氣溫攝氏三十五、六度ニ上昇スルコトアリ冬季ハ寒冷ニシテ氣溫零下八、九度ニ低下スルコトアリ降雪期ハ十一月中旬以後ニシテ中國山脈ニ接スル地方ハ積雪相當ニ深シ一ケ年ノ降水量凡ソ千二百耗乃至二千耗トス

### (三) 經營及利用狀況

#### イ 經營者、利用者其ノ他

牧野ノ經營者ニハ畜産組合、部落、個人共同等アリ畜産組合經營ノモノニ在リテハ國有林ノ使用許可ヲ得テ主トシテ地元

村ニ於ケル組合員ノ牛馬ヲ放牧シ部落經營ノモノニ在リテハ村有地ヲ借受ケ或ハ舊來ノ慣行ニ依リ村有地、部落有地ニ主トシテ地元部落民ノ牛馬ヲ放牧スルモノニシテ之ガ經營上何等ノ組織統制ナキ場合多シ個人共同經營ニテ個人有地ヲ持寄り或ハ個人有地ニ自家飼養ノ牛馬ヲ放牧スルハ一般ニ行ハルル所ナリ

牧野利用ニ關スル規約ハ組織的經營ヲナスモノノ外ハ口約ニ依リ極メテ簡單ナルモノノ如シ共同利用ニ於ケル經費賦課ニ付テハ舊來ノ慣行ニ依リ放牧スルモノハ普通放牧料ヲ徴セザルモ組織的經營ノモノニ在リテハ放牧頭數割ニ依リ放牧料ヲ徴收スルモノニシテ小奴可牧場ニ於テハ一放牧期間一頭最高二圓十錢ナリ

#### ロ 事業ノ概況

##### 放牧ノ場合

放牧地 放牧地個々ノ面積ハ大小區々ナルモ山間ニ在ルモノハ頗ル大ナルモノアリテ千町乃至二千町ニ達スルモノ少カラザルモ一般ニ百五十町乃至三百町ヲ普通トシ小規模ノモノ亦少カラズ多ク雜木林ニシテ草地亦少カラズ雜木林ハ楨、栗、櫟等ヨリ成リ草種ハ萱、チガヤ、笹等トシ雜木ノ若芽又ハ稚樹モ採食セラレ平坦ナル草地ハ牛馬好ムデ集合スル爲荒廢ノ跡ヲ認ム一般ニ火入、施肥等放牧地ノ草生改良ノ手段ヲ講ズルコトナク放牧地設備ハ組織的經營ノモノニ在リテハ監視小屋ヲ設クルモ飲水場等ハ特ニ設ケズ自然ノ溪流ヲ利用スルヲ普通トス放牧地周圍ニ柵ヲ繞ラシタルモノアルモ多クハ耕地ニ面セル方面又ハ要所ニ土壘、木柵等ヲ設備シ其ノ他ハ自然ノ山谷ヲ以テ境界トセリ

放牧家畜 大多數ハ牛ニシテ主トシテ改良和種ニ屬ス調査地方ニ於テハ蕃殖牝牛ノ殆ンド全部ハ夏秋ノ間犢牛ト共ニ放牧飼養セラルルモノナリ二歳牝牛ヲ除キテハ牝牛ハ一般ニ放牧サレザルモ時ニ放牧地内ニ一區劃ヲ設ケ牝牛ノ放牧ニ充ツルモノアリ尙一放牧地ノ放牧頭數ハ調査箇所ニ付之ヲ看レバ二十四頭乃至二百七十一頭ナリ放牧家畜ハ放牧後稍削瘦スルモ概シ

六一



テ強健ナル發育ヲ遂ゲ跛蹄堅牢トナルト謂ハル六月初旬ヨリ同中旬迄ノ間ハ牛虱ノ被害アルモ負傷、斃死ハ比較的少シ、  
 放牧方法 放牧期間ハ春ハ八十八夜ヨリ半夏生迄、秋ハ彼岸ヨリ十一月末迄トシ晝夜放牧ス盛夏ノ候ハ炎熱ヲ避ケ又虻、  
 牛虱等ノ被害ヲ豫防セムガ爲休牧舎飼シ厩肥ヲ製造スルヲ普通トスルモ時ニ春ヨリ秋迄引續キ放牧スル所アリ一般ニ輪換放  
 牧行ハレザルモ縣ノ獎勵ニ依リ近時之ヲ開始セルモノアリ尙放牧者ノ飼養管理ハ放牧畜主自ラ時々巡視ニ赴キ糠漬、糞等ヲ  
 給與スルヲ普通トスルモ組織的ニ經營セルモノニ在リテハ專任監視人ヲシテ之ニ當ラシム尙縣東部ニ在リテハ部落申合セ十  
 數頭乃至數十頭ニ付一人若ハ數人ノ監視人ヲ附シ終日放牧シ晩刻之ヲ下山セシムル習慣アリ

#### 採草ノ場合

採草地 近時金肥利用、勞力ノ不足、轉換其ノ他ノ關係ヨリ採草地ノ利用次第ニ減少シ雜木、荊棘等ヲ生ジ荒廢セル所尠  
 カラザルモノノ如キモ之ガ改善管理ニ關シ何等ノ方法講ゼラレズ又設備ノ看ルベキモノナシ

採草方法 採草ハ放牧地内ニテ一定期間内行フコトアルモ普通畦畔及耕地ニ近接セル傾斜面ニ於テ隨時採草シ乾草ハ九月  
 頃耕地附屬ノ採草地ニ於テ調製セラルルモノニシテ冬期ノ飼料及蔴草トシテ使用セラレ畦畔雜草ハ夏季ノ舍飼期ニ於ケル飼  
 料トセラル

#### 收支計算

舊來ノ慣行ニ基キ何等ノ設備ヲ設ケズ放牧スルモノニ在リテハ收支計算ノ看ルベキモノナキモ組織的ニ牧野ヲ經營シ借地  
 料、監視人給料其ノ他ヲ要スルモノニ在リテハ之等經費ヲ放牧料トシテ放牧頭數割ニ徵收スルモノ多ク尙部落經營ノモノニ  
 在リテハ放牧地内ノ山林收益ノ一部ヲ以テ經費ノ一部ヲ支辨スルモノアリ

#### (四) 使用收益關係

調査牧野ハ統一セラレタル村有地多ク村ニ於テ管理區分ヲ決定シ村有林野使用條例ニ依リ使用セシメムトスルモ事實ハ勝  
 手ニ放牧シ又ハ部落有林野統一ノ條件ニ基キ舊慣ニ依リ使用サレ居リ特ニ料金、期間其ノ他ニ關スル成文ノ契約ナシ  
 賃借料ハ普通無償ナルモ有料ナルモノニ在リテハ公租公課ニ相當スル程度ヲ支拂フモノニシテ公租公課ハ土地所有者ニ於  
 テ負擔スルモノトス而シテ改良修繕ハ普通部落民ノ賦役ニ依リ行ハレ材料ハ各自ノ持寄又ハ放牧地内ノ木材等ヲ伐採利用ス  
 ルモ時ニ請負ニ依ルコトアリ尙使用收益ニ關スル制限ニ付テハ公有地ニ於テハ舊慣ヲ重ムジ放牧スルモノ多キヲ以テ制限寬  
 ニシテ伐木等モ自由ニ行フ所アルモ國有地ニ於テハ使用制限嚴ニシテ利用上不便ヲ感ジツツアルモノノ如シ

#### (五) 調査地方ニ於ケル牧野利用ト他産業トノ關係

##### イ 牛ノ飼育ト牧野利用

縣下ニ於ケル牛ノ飼養頭數約九萬五千頭ノ内約二割八分ニ相當スル二萬七千頭、牛ノ生産頭數約一萬六千頭ノ内約五割三  
 分ニ相當スル約八千五百頭ハ双三、比婆、神石ノ三郡ニ飼養生産セラル尙右各郡別ニ飼養生産ノ狀況ヲ看ルニ比婆郡ニ於テ  
 ハ飼養頭數約一萬三千頭、生産頭數約三千六百頭、神石郡ニ於テハ飼養頭數約五千七百頭、生産頭數約二千頭、双三郡ニ於  
 テハ飼養頭數約八千三百頭、生産頭數約二千八百頭ニシテ之等各郡ノ農家ハ毎戸殆ンド牛ヲ飼養セザルモノナク縣内主要ノ  
 生産地ニシテ畜牛生産ニ依ル收入ハ農家ノ經濟上極メテ主要ナル部分ヲ占ム比婆、神石ノ二郡ハ良牛ヲ産スルヲ以テ名アリ  
 牛ノ大多數ハ放牧期間中ハ山野ニ放牧セラレ又冬期間ニ在リテモ藁程、野乾草等ヲ主ナル飼料トナシ其ノ飼養生産ハ牧野ノ  
 利用ニ俟ツ所極メテ大ナリ牧野利用ト他産業トノ關係ハ次ノ如シ

##### ロ 普通農業トノ關係

農家一戸當耕地面積田八反乃至九反、畑一反乃至二反ニシテ山間部ニモ拘ラズ水田面積比較的大ニシテ牛耕盛ニ行ハレ肥



料モ厩肥ヲ利用スルコト多ク牛ト普通農業トハ離ルベカラザル關係ヲ有セリ農作物ハ米ヲ主トシ其ノ他大麥等ヲ栽培セリ氣候寒冷ニシテ積雪多キ地方ニハ二毛作ハ行ハレズ水田裏作トシテ多少紫雲英ヲ栽培シ飼料トナシ又綠肥トシテ使用ス農産生産額ハ一般ニ諸産業中ノ首位ヲ占ム

ハ 養蠶業トノ關係

養蠶行ハルル地方ニ於テモ其ノ繁忙期中ハ放牧シ得ルヲ以テ勞力ノ分配、桑肥ノ自給等ノ見地ヨリ牧野利用ハ密接ナル關係アリ

ニ 林業トノ關係

林業ハ一般ニ盛ニ行ハレ諸産業中多クハ農産ニ次ギ第二位ニアリ山林ニシテ放牧ニ利用セラルル地積少カラズ古來漫然ト放牧セラレタルモ近時公有林野開發ノ傾向生ズルニ至リ村有林野條例ニ基キ使用セラルルモノアルモ未ダ部落有當時ノ舊慣ヲ脱セズ自由ニ放牧スルノ慣習ヲ存セリ

(六) 牧野ニ關スル獎勵施設

縣八十年計畫ヲ立テ縣下主ナル牧野ニ對シ輪換放牧ニ要スル土壘ノ延長約三萬五千間ノ改善ヲ爲サムトシ昭和四年度ニ於テハ金千六百圓ヲ以テ設備費ノ三分ノ一ヲ補助シ昭和五年度ニ於テハ千三百圓ノ豫算ヲ計上セリ

山口縣

調査箇所

牧野名	種類	所在地	所有地	經營者	利用區域	面積	放牧頭數
中山採草地	採草地	美禰郡綾木村字中山	村有	字中山	字中山	11,500(實測)	
堅田採草地	採草地	美禰郡別府村字堅田	村有	字堅田	字堅田	110,100(臺帳)	
上野臺採草地	採草地	阿武郡嘉年村大字嘉年上	村有	大字嘉年上ノ字土居、居坂、大迫、井戸四部落	字土居、居坂、大迫、井戸	2,800(臺帳)	
二位ヶ濱放牧場	放牧地	大津郡日置村大字日置上	村有	大津郡畜産組合	大津郡	3,970(實測)	休牧中

一 沿革

藩制時代ニ於ケル牛ノ牧野狀況ハ詳カナラズ近世ニ至リテ放牧次第ニ衰へ現在ノ牧野ハ殆ンド全部採草地トシテ利用セラレルニ過ギズ而シテ之ガ共同利用ニ供セラルルモノハ村有地ニシテ右村有地ハ昔時概ネ地元部落民ノ自由入林ニ委セラレタルモノナリシモ官民有區分ノ際一時官民有未定地ニ編入セラレ明治十五年遂ニ國有林ニ編入セラレタルヲ以テ地元民ハ生活ノ資源ヲ奪ハレタルモノトナシ協力シテ國有林野下戻ノ運動ヲ起シ明治三十五年六月其ノ目的ヲ達シ緣故部落ニ下戻セラレ



ルニ至レリ當時縣ハ整理ノ方針トシテ村及縁故部落ヲ協定セシメ下戻林野ヲ村有ニ歸屬セシムルコトニ努メ明治四十年ニ至リ漸ク其ノ目的ヲ達成シ村有ニ統一セラレタルモノトス然ルニ依然地元民ノ自由入林ニ委セラレ名目ノミニ過ギザリシヲ以テ其ノ後縣ハ屢町村並部落有林野ノ整理ニ關シ訓令ヲ發シ入會關係ノ整理、管理區分ノ決定、施業案ノ編成ヲ行ハシメ村有林野ヲシテ營林地區、貸付地區、柴草採取地區等ニ區分セシメタリ現在共同採草ノ行ハルルハ主トシテ柴草採取地區ニ於ケルモノトス

### 二 現況

#### (一) 所在地、所有者其他

本縣ニ於ケル牧野ハ主トシテ採草ニ使用セラレ阿武郡、美禰郡、都濃郡、吉敷郡、佐波郡等ニ多ク原野ヲ爲セリ牛馬牧野總面積約四萬三千八百町ノ内放牧地約二百町、採草地約四萬三千六百町ナリ放牧地中公有ニ屬スルモノ約三割三分、私有ニ屬スルモノ約六割七分ニシテ採草地中公有ニ屬スルモノ約七割七分ニシテ第一位ヲ占メ私有地之ニ次ギ約二割二分ニ當リ社寺有ニ屬スルモノハ極メテ僅少ナリ山間ノ耕地ニハ若干ノ私有採草地附屬スルヲ普通トセリ

#### (二) 地勢、地味、氣候

採草ニ利用セラルル土地ハ傾斜比較的緩ナルモ時ニ相當急峻ナルモノアリ地味普通ナリ氣候ハ寒暑共ニ甚シカラズ概ネ溫和ニシテ雨量平均千五百耗乃至二千二百耗ナリ

#### (三) 經營及利用狀況

##### イ 經營者、利用者其他

採草地ハ多ク地元部落ノ經營ニ屬シ利用者ハ地元部落民ニシテ田畑ヲ耕作シ又ハ牛馬ヲ飼養スルモノニ限ラル而シテ部落ハ村有林野條例ニ依ル使用料ヲ更ニ利用者ニ負擔セシムルモノニシテ採草地ノ使用方法等ニ付テハ特ニ規約ヲ設ケザルヲ普通トセリ

##### ロ 事業ノ概況

採草地 採草地個々ノ面積ハ區々ナルモ調査箇所ニ於テハ十三町乃至百三十町ニシテ草生地ヲ爲セル所多ク笹、チガヤ等ニシテ又萩、栗、櫟等ノ雜木ヲ混ゼリ近時金肥ノ利用盛トナリ採草スルモノ漸次減少シ部落ヨリ遠隔ノ地ニ在ル採草地ハ利用充分ナラズ又往時ノ如ク火入ヲ行フコト容易ナラズ雜木、荊棘等繁茂シ採草地トシテハ次第ニ荒廢シツツアルモノノ如シ  
採草方法 採草地ハ使用者ニ分割採草セシメ數年毎ニ分割換ヲ行ヒ採草上ノ不公平ヲ無カラシムルト同時ニ使用セザル爲雜木、荊棘等ヲ生ジ荒廢スルヲ防止セリ輪換採草等ハ普通行ハレズ同一地積ヨリノ採草ハ年一回ヲ普通トシ田植後ヨリ九月末迄採草セラル刈取ニハ普通鎌ヲ用ヒ運搬ハ牛馬背ニ依ルヲ普通トスルモ交通至便ノ地ニ在リテハ車輛ヲ使用スルコトアリ採取セルモノハ多クハ生草ノ儘厩舎ニ投入シ一部ハ飼料ニ利用セラレ大部分ハ厩肥ノ原料トセラル

##### 收支計算

採草地ニハ何等ノ設備、施設等ヲ行フコトナク收支計算ノ看ルベキモノナシ

#### (四) 使用收益關係

採草地ハ村有林野使用條例ニ依リ使用サレ居ルモノニシテ部落ハ一反歩ニ付二錢内外ノ使用料ヲ村ニ納付スルモノトス契約期間ハ該條例ニ依レバ五箇年乃至十箇年ナルモ多クハ採草ノ舊慣アリタルノ地ナレバ特ニ取決ムルコトナク無期限ニ使用シ居ルモノノ如シ公租公課ハ土地所有者タル村ニ於テ負擔ス前記使用料ハ公租公課ト略同額ナルヲ普通トセリ土地ノ改良修



繕ハ利用者ノ負擔ナルモ殆ンド斯ノ如キ事例ヲ看ズ使用條例ニハ割當後六ヶ月以内ニ整理ヲ爲サザルトキ、所定期限内ニ使用料ヲ納付セザルトキ又ハ割當地内ノ柴草ヲ採取セズ若ハ割當地ヲ荒廢セシメタルトキハ其ノ使用ヲ停止シ又柴草採取豫備地トシテ共同利用セラルル地ハ毎年一回以上整理ヲ爲スヲ必要トスル等ノ條件ヲ附スルモ實行セラレザル場合少カラズ

(五) 調査地方ニ於ケル牧野利用ト他産業トノ關係

イ 牛ノ飼育ト牧野利用

調査地方ノ美禰、大津、阿武三郡ニ飼養セラルル牛ハ約一萬八千頭ニシテ縣下總頭數ノ三割弱ニ當リ尙牛ノ生産總頭數約六千七百頭中三郡下ニ生産セラルルモノ約二千七百頭ニシテ四割強ニ該當シ阿武郡、大津郡ハ生産殊ニ盛ナリ而シテ之等地方ニ於ケル牛ノ飼養生産ハ牧野利用ニ俟ツトコロ大ニシテ牧野利用ト他産業トノ關係左ノ如シ

ロ 普通農業トノ關係

農家一戸當耕地面積田七反三畝乃至一町六反六畝、畑一反五畝乃至四反六畝ニシテ米麥ヲ主ナル農作物トシ農産ハ諸産業中第一位ヲ占ムニ毛作ハ比較的盛ニシテ水田裏作トシテ一般ニ紫雲英ノ栽培行ハレ飼料トシテ利用セラルルモノ少カラズ牛馬耕盛ニシテ牛馬ハ春夏ノ候ト雖舍飼セラルルヲ普通トシ厩肥ノ利用ト共ニ近年金肥ノ使用モ増加シタルモ不景氣ノ深刻化ト共ニ其ノ使用量ハ稍減退ノ傾向アルモノノ如シ

ハ 養蠶業トノ關係

養蠶ハ調査各村ニ行ハルルモ特ニ盛ナリトハ謂ヒ難ク飼畜努力ト養蠶努力トノ分配上衝突スルガ如キ事例少シ

ニ 林業トノ關係

林産ハ諸産業中農産ニ次ギ第二位ニ在リ村有地ニ付テハ各村共管理區分ヲ決定シ採草地ノ區分ヲ明カニシタルモ之ガ利用

充分ナラズ又火入等ノ整理ヲ行フコト困難ニシテ雜木、荊棘等ヲ生ジ荒廢ヲ來シ其ノ程度甚シキモノニ在リテハ採草地トシテ存在ノ必要ナシトシテ營林地ニ編入セラルルモノアルモノノ如シ

(六) 牧野ニ關スル獎勵施設

牧野ニ關スル縣ノ獎勵施設ナシ

熊本縣

調査箇所

牧野名	種類	所在地	土有別地	經營者	利用區域	面積	放牧頭數
朝日村北部放牧場	放牧兼採草	上益城郡朝日村大字鶴ヶ田	村有及	放牧組合	大字鶴ヶ田	200,000(見込)	馬牛 二八〇〇
笹倉牧場	放牧地	阿蘇郡波野村大字小地野	村有	放牧組合	大字小地野ノ一郡、大字小園	100,000(見込)	馬牛 四七〇〇
上津留牧場	放牧地	阿蘇郡野尻村大字津留	村有	牧場組合	大字津留	100,000(見込)	馬牛 二〇〇〇
中原牧場	放牧兼採草	阿蘇郡南小國村大字中原	村有	特ニ經營者ト認ムベキモノナシ	大字中原ノ一部	50,000(見込)	馬牛 三三七一

一沿革



藩制時代ニ於ケル牛ノ牧野狀況ハ詳カナラザルモ古來矢部牛ノ稱普ク知ラレ牧野利用ハ阿蘇、上益城兩郡ノ如キ豐富ナル原野ヲ有スル地方ニ於テ相當盛ニ行ハレタルモノト推セラル

現在牧野トシテ利用サレ居ルモノハ概ネ村有、部落有又ハ私有林野ニシテ右村有林野ハ藩制時代ニハ各部落有トシテ放牧採草等ノ共同利用ニ供サレ居タルモ明治初年頃國有林野ニ編入サレシ爲各部落民ハ之ガ利用上支障ヲ來セシヲ以テ明治ノ半頃以後村ニ於テ下戻又ハ拂下ヲ受ケ尙一部ハ舊來ノ部落有ノ村統一ニ依リ村有トナリタルモノニシテ明治三十三年以降國有原野ハ著シク減少シ民有原野ハ反對ニ増加セリ而シテ各部落民ハ從來ノ使用慣行ニ依リ之等村有林野ヲ借受ケ或ハ部落有地ヲ以テ放牧採草地トシテ利用シツツアリ尙私有地ハ其ノ所有者又ハ小作人ニ依リ依然採草地トシテ利用サレ居ルモノ多シ右ノ内共同利用ノ牧野ハ從來一般ニ無統制ニ使用サレ居リタルモ大正十四年度以降帝國競馬協會ノ助成ニ基キ縣畜産組合聯合會ハ牧野改善ニ對シ指導獎勵ヲ行ヒ主トシテ阿蘇、上益城及菊池ノ三郡ニ亘リ多數改良牧野ノ建設ヲ看ルニ至リ其ノ利用狀況モ漸ク統制ニ赴キツツアリ

## 二 現 況

### (一) 所在地、所有者其ノ他

牧野ハ大部分原野ニシテ地價ハ反當二十錢程度ヲ最モ普通トシ二十五、六錢ニ及ブモノアリテ實際取引價格ハ五圓乃至十圓ヲ普通トシ十五圓ニ及ブモノアリ而シテ牧野ノ利用ハ主トシテ阿蘇、上益城及菊池ノ三郡ニ於テ行ハレ居ル關係上放牧採草地トシテノ區劃其ノ他ノ設備ヲ施シタル所謂牧場ト稱セラルルモノハ大部分右三郡ニ存在スルモノニシテ就中阿蘇郡ハ縣下原野面積約八萬三千町中六割八分ニ相當スル約五萬七千町ノ原野ヲ有シ其ノ中ニ八十箇所以上ノ大小牧場散在スルモノト

セラル調査村ニ於テモ三箇所乃至六箇所ノ放牧地又ハ放牧兼採草地アリ尙主トシテ採草ニ供セラルル私有地ハ普ク田畑ノ周圍ニ散在ス牧野ヲ所有別ヨリ看ルトキハ大部分國有地ノ拂下、下戻又ハ部落有地ノ統一ニ依ル村有及私有ニ屬スルモノニシテ右ノ内村有地ハ主トシテ放牧、私有地ハ主トシテ採草ニ利用セラル

### (二) 地勢、地味、氣候

阿蘇高原地帯ハ概シテ立木、溪流少キモ上益城及南小國方面ハ概シテ山林地帯多ク溪流少カラズ而シテ地味ハ火山灰地帯ナルモ概シテ肥沃、草立良好ナリ尙氣候ハ俗ニ九州ノ北海道ト稱セラルル程寒冷ニシテ十一月末ヨリ降雪ヲ看冬季零下十度ニ降ルコト珍カラズ而モ霧多クシテ乾草ノ貯藏ニ最モ支障アリトナス

### (三) 經營及利用狀況

#### イ 經營者、利用者其ノ他

一般ニ小字單位ノ部落聯合シ又ハ大字部落ノ牛馬飼養者ノミヲ以テ牧野ノ建設、利用上ノ改善並統制ヲナスヲ目的トシテ任意組合ヲ組織シ或ハ特ニ組合ヲ組織セズ全關係部落民ガ申合ニ依リ共同利用ヲ爲スモノトス尙私有地ヲ持寄り一團地トシテ關係者ガ共同利用ヲナスモノ稀ニアリ從ツテ經營者即利用者ナルモ一部地方ノ牧野ニ在リテハ組合經費ヲ得ル爲放牧ノ餘裕アル際關係部落外ノ牛馬ノ預托放牧ヲ爲スコトアルモ一般ニ村單位ノ經營組織又ハ營利ヲ目的トスル牧野經營ハ無キモノノ如シ

組合組織ノモノニ於テハ組合長其ノ他ノ役員ヲ置キ之等役員ノ職務、權限等ニ關シ規約ヲ設ケ居ルモノアルモ一般的ニハ特ニ規約ナク舊慣ニ依リ各關係部落ヨリ若干名宛ノ牧野委員ヲ設ケ委員長ハ利用ニ最モ密接ナル關係ヲ有スル部落ノ委員ヲ以テ之ニ任ジ一定年限(普通二年)之等委員ヲ以テ組合ノ執行機關トシテ經營シ居ルモノニシテ經費ノ主ナルモノハ放牧期



間中ノ監視人手當(普通一人一日一圓程度)及土地使用料等ナリ之等ハ利用者ニ對シ普通放牧頭數割ニ賦課シ牧野ノ建設、修理、火入其ノ他ノ爲必要トスル勞役ハ普通組合員各戸若ハ使用關係部落戸數ニ平等ニ課スルモノトス

#### 事業ノ概況

##### 放牧ノ場合

放牧地 放牧面積ハ小規模ノモノ二十町乃至三十町、大規模ノモノハ千町以上ニ達スルモ普通五十町乃至二百町程度ノモノ最モ多ク一般ニ共同利用ノ放牧地ニ於テハ輪換放牧行ハレザル爲一部地方ヲ除キ常ニ家畜ノ集合スル場所ハ略一定シテ毎年連續使用サルル爲局部的ニ荒廢シ且放牧地内ハ庇蔭樹缺如セリ而シテ右放牧地ノ管理ハ毎年各利用部落ヨリ出役シテ土壘ノ修理其ノ他ヲ行フト共ニ時期ヲ定メ採草地ト共ニ一齊ニ年中行事ノ一トシテ火入ヲ行フモノナリ尙設備ノ主要ナルモノハ隔墻物タル土壘、給水設備及監視小屋等ナリ地勢、地質ノ關係上土壘ノ築造ハ比較的容易ナルモ水源乏シキ地方ニ於テハ給水設備ニ相當困難ヲ感ズル所尠カラズ

放牧家畜 主トシテ牝牛馬ニシテ牛ハ赤毛肥後種、黒毛改良和種ナリ而シテ去勢ヲ爲サザル生後八箇月以上ノ牡牛ハ縣令ニ依リ放牧ヲ禁止セルモ必ズシモ嚴守サレザルモノノ如ク中原牧場ノ如キハ產犢ノ三割程度ハ野合生産ナリト稱セラルル年輪ハ普通牛ハ最高十四、五歳迄放牧セラルルモノニシテ放牧頭數ハ調査牧野ニ於テハ一放牧地當牛馬百七十六頭乃至六百頭ニシテ縣全般ヨリ看ルモ相當多キ順位ニ屬スルモノノ如シ尙農家一戸當放牧頭數ハ普通三、四頭波野地方ハ五、六頭ニ及ビ時ニ七、八頭ヲ放牧スルモノモ看ラルルガ昔時ノ如ク一戸十數頭ヲ繫養放牧スルモノハ殆ンド稀ニシテ放牧牛頭數ノ五、六割ハ仔付ナリ尙放牧畜ハ放牧中傷害ヲ受クルモノ極メテ少ク一部當業者ノ意見トシテハ牛馬共ニ放牧中生育良好、肥滿シ冬季ノ粗放ナル飼養ニモ堪ユル力増スモノトセララル

放牧方法 期間ハ笹倉牧場ノ如ク六月初旬ヨリ十月下旬迄夏季ヲ通ジテ放牧スルモノモアレド普通ハ五月初旬ヨリ七月初旬迄放牧シ爾後ハ採草ニ供スルモノ或ハ供セザルモノ又ハ七月初旬ニ農耕、採肥ノ爲一時家畜ヲ牽出シ九月初旬乃至十一月初旬迄第二回ノ放牧ヲ爲スモノアリ又地方ニ依リテハ農繁時期ニハ晝間隨時牽出シ夜間放牧ヲ爲スモノアリ放牧期間中監視人ヲ置キ一定ノ給料ヲ支給シテ監視ニ當ラシムルヲ普通トシ尙地方ニ依リテハ右監視人アルモ各畜主ハ所有放牧畜ノ状態ヲ看ル爲隨時牧場ヲ訪フモノアリ

放牧畜ハ組合員所有又ハ預托タルヲ問ハズ所有者ノ名札ヲ付スルヲ普通トシ輪換放牧ハ改善サレタル牧野ニ在リテハ之ガ計畫アルモ未ダ一般ニ實施サレザルモノナリ

##### 採草ノ場合

採草地 共同採草地ハ一般ニ無統制ニ使用サレ殊ニ採草上便利ナル所ハ濫獲ニ陥リ局部的ニ荒廢シ概シテ之ヲ私有採草地ニ比スル時ハ草生甚シク劣リ反當收量三、四百貫ヲ普通トスルモノニシテ管理トシテハ毎年春季一回火入ヲ行フニ過ギズ尙共同採草地ノ採草ハ其ノ利用面積ノ割合ヨリ之ヲ看ル時ハ乾草トシテ利用セラルル部分稍廣キガ如シ尙共有、私有ノ採草地全部ニ付テ看レバ乾草利用面積過半ヲ占メ殊ニ私有採草地ハ多ク良質乾草ノ生産場タリ

採草方法 採草ハ主トシテ私有地ニ於テ個々ニ行ハルルモノ多ク専用ノ共同採草地ハ甚少シ尙共同放牧地ニシテ採草兼用ノモノハ一回放牧後採草ニ利用スルモノニシテ共同採草地ニ於テハ關係部落間ニ分割使用スルモノアルモ大部分ハ舊慣ニ依ル無統制ナル共同利用ナリ採草ハ普通年一回トシ生草ニアリテハ土用前後ヨリ乾草ニアリテハ九月中旬ヨリ十月始迄ノ間ニ行フ一人一日生草刈取量二百貫内外、乾草歩留リ三割程度ナリ生草ハ直ニ牛背ニヨリ自家ニ運搬スルモ乾草ハ野積トシテ隨時搬入スルモノ尠カラズ



## 收支計算

共同經營ノ場合ニ於ケル收支ハ各牧野ニ依リ區々ニシテ詳細明カナラザルモ收支ノ主要項目ニ付概説スレバ收入ノ主ナルモノハ組合員ノ負擔金ニシテ普通放牧頭數割トシ牧野ノ新設、大修繕等ノ爲ニハ時ニ關係部落全戸數ノ平等負擔トスルモノ珍カラズ右ノ外組合員外ノ放牧料收入ヲ擧グルモノアリ之等現金收入ノ外牧野ノ新設、修繕、管理等ニ隨時組合員ニ出役ヲ課スルガ普通ナリ而シテ支出ノ主ナルモノハ監視人ノ給料、牧野ノ使用料、公租公課、修繕費等ナルガ牧野設置ノ當初ニハ多大ノ經費ヲ要スルモ材料費ヲ多ク要セズ主トシテ土工費ナル場合ニハ自給勞力ノ換貨額其ノ大部分ヲ占ム

### (四) 使用收益關係

共同利用牧野ノ土地ハ主トシテ村有ニ屬シ從來ノ慣行ニ依リ關係地元部落民ニ使用セシメ居ルモノニシテ牧野ニ關スル特別ナル使用條例ノ如キモノヲ設ケズ一般ニ公租公課ニ相當スル使用料及牧野ノ管理其ノ他ニ關スル經費ヲ利用者側ニ於テ支出スルニ過ギザルモノナリ而シテ使用年限ノ如キモ定アルモノ少シ尙入會共有地ニ於テモ特ニ使用收益ニ關スル規約ノ如キモノナク關係部落ノ慣行利用ヲ續ケ居ルモノニシテ部落有林野統一ノ條件中一般ニ牧野トシテノ慣行使用ヲ認メ居ルモ一部地方ニ在リテハ之ヲ明カニセザルモノアリ

### (五) 調査地方ニ於ケル牧野利用ト他産業トノ關係

#### イ 牛ノ飼育ト牧野利用

縣下ニ於ケル牛ノ飼養總頭數約六萬四千頭中四割六分ニ相當スル約二萬九千頭、同生産總頭數約九千七百頭中六割四分ニ相當スル約六千二百頭ハ調査地方タル阿蘇、上益城ノ兩郡ニ於テ飼養生産サレ尙兩郡ニ於ケル郡別生産狀況ヲ看ルニ縣下總生産頭數ニ對シ阿蘇郡ニ於テハ四割八分、上益城郡ニ於テハ一割五分ニ相當ス次ニ兩郡ニ於ケル農家戸數ニ對スル牛ノ飼養

戸數割合ハ阿蘇郡ニ於テハ七割八分、上益城郡ニ於テハ二割七分弱ニ相當ス而シテ最近主トシテ一般不景氣ノ爲牛ノ飼養生産共ニ多少減少ノ傾向アリ

之等ノ狀況ヨリ看テ調査地方ニ於テハ農家ノ大部分ハ牛ヲ飼養シ年々多數ノ生産ヲ行ヒ居ルモノニシテ他面當地方ノ一般産業狀況ヨリ看テ南小國村ノ如キ林業ノ盛ナル一部地方ヲ除キ仔畜收入ハ農家現金收入ノ主要ナル部分ヲ占ムルモノナリ而シテ右牛ノ飼養生産ハ牧野ノ利用ニ俟ツ所最モ大ニシテ尙牧野利用ト他産業トノ關係左ノ如シ

#### ロ 普通農業トノ關係

一般ニ水田面積ノ割合少ク米麥ノ自給自足困難ナル所多シ之ニ反シ畑地ハ比較的廣ク陸稻及玉蜀黍ノ栽培ハ最モ普通ニ看ル所ニシテ農産物ハ一、二ノ特用作物ヲ除キ大部分自家用ニ供セラル而シテ之等耕地ニ施用スル大部分ノ肥料ヲ自給シ尙畜力利用ハ畑地多キ關係上殆ンド年内ヲ通ジテ行ハレ原野ノ生、乾草ト共ニ玉蜀黍、藁稈類等ノ潤澤ナル自給飼料ニ依リ農産物ヲ貴化シ家畜生産費ヲ低下シ或ハ農業經營ノ全般ニ亘ル勞力ノ分配ヲ適當ナラシムル等普通農業ト畜産トハ密接不離ノ合理的結合ヲ爲セリ

#### ハ 養蠶業トノ關係

養蠶地トシテハ氣候概シテ寒冷ニ過ギ加フルニ火山灰ノ降下ニ依ル被害尠カラザルヲ以テ斯業ハ一般ニ不振ノ状態ニアリ從ツテ牧野利用トノ關係極メテ薄シ

#### ニ 林業トノ關係

南小國村ノ如ク林産物ノ運搬、販賣上有利ナル地方ニ於テハ夙ニ造林計畫成リ之ガ實施サルルニ伴ヒ原野ハ縮少セラレ今日殘存セルモノハ造林及牧野利用上寧ロ不便ナル村外遠隔ノ地域(主トシテ村有)ニシテ右ハ畜産ニ熱心ナル部落ノ主張



ニ依リ牧野トシテ保タレ居ルモノノ如クナルモ他地方ニ於ケル共同利用ノ慣行牧野ハ造林ニ依ル縮少比較的尠ク寧ロ地主階級ノ所有スル原野、耕地ハ小作其ノ他ノ關係ニ依リ造林セラルルモノ漸次増加スル傾向アルモノノ如ク從ツテ現在採草地トシテ多ク利用サレ居ル私有地ノ減少ハ免レザルベシ尙林間放牧ハ一般ニ行ハレザルモ前記南小國地方ニ於ケル一部村當局ハ畜産ト林業ノ併行上之ガ實施ノ有利ナルヲ認メ居ルモノナリ

(六) 牧野ニ關スル獎勵施設

牧野ニ關スル縣ノ獎勵施設ナシ

大分縣

調査箇所

牧野名	種類	所在地	所有別地	經營者	利用區域	面積	放牧頭數
町田模範牧野	採放草地	玖珠郡南山田村大字町田	部落有	牧野組合	大字町田	三〇・六八(實測) 一、五〇〇〇(見込)	馬牛 四〇一 五〇
三重模範牧野	採放草地	大野郡三重町大字松尾	部落有及私有	牧野組合	大字松尾	九・五〇〇(實測) 一〇・一〇〇〇(見込)	馬牛 一〇八 二
久住模範牧野	採放草地	直入郡久住町大字久住	町有、組合有及私有	牧野組合	大字久住	二二・五五(實測) 九・九〇〇(實測)	馬牛 一一八 五二

一沿革

藩制時代ニ於ケル牛ノ牧野狀況ハ詳カナラザルモ彼ノ杵築若宮市、熊崎卯ノ市ノ如キ其ノ起源前者ハ殆ンド千年ニ後者ハ三百年ニ近ク九州最古ノ歴史ヲ有シ其ノ間多數牛馬ノ賣買アリシニ徴スルモ如何ニ多クノ牛馬蕃殖サレ他面牧野ノ利用普ク行ハレタルヤ疑ナシ

尙直入郡久住町附近ハ舊岡藩ニ屬シ豊後牛ノ產地ニシテ古クヨリ畜牛ノ蕃殖行ハレ殊ニ慶安年間ヨリ天保年間ニ亘リ之ガ獎勵ニ依リ多數ノ畜牛山野ニ放飼サレタリトナシ大野郡三重町附近ハ一部岡藩、一部臼杵藩ニ屬シ岡藩ノ畜牛獎勵ニ次ギ臼杵藩ハ各村落ニ産牛ヲ獎勵シ卯ノ市ノ發達ヲ企テ或ハ三重市ヲ設ケ之等市場ニ於テ藩ハ自ラ多數ノ良牛ヲ買上ゲ之等ヲ農家ニ貸付ケ原野ニ放飼セシメタル結果農家ハ殆ンド三頭以上ヲ飼ハザルモノ無カリシト傳ヘラレ玖珠郡ハ森藩、久留島藩ニ屬シ當時小藩ノ故ヲ以テ畜牛ノ獎勵充分ナラザリシモノノ如キモ古來野矢牛ノ著名ナリシ事實ヨリシテ此ノ地方ニ於テモ原野ニ於ケル牛ノ放飼相當盛ニ行ハレタルモノトナスモノナリ

往古ノ自由放牧ヨリ藩制時代ヲ經テ漸次部落區域ノ共同放牧又ハ共同採草トナリ町田部落ノ如キハ明治二十二年頃既ニ七、八十町ノ區劃牧場ヲ設ケ利用上之ガ統制ヲ講ジタルモ達セラレズ一般ニ各部落ノ共同利用牧野ハ長年月ノ間自由無統制ニ利用サレタル爲ニ遂ニ荒廢シ且植林其ノ他ノ爲ニ其ノ面積縮少サルル傾向アリタルモ大正七年以降縣其ノ他ノ獎勵施設ニ基キ牧野ニ關スル指導獎勵行ハレタル爲今ヤ各地ニ牧野改良組合及近代の牧野ノ設置並之ガ利用方法等ニ付合理的改善ヲ看ツツアリ

二現況

(一) 所在地、所有者其ノ他



本縣ニ於ケル牧野ハ全縣下ニ亘リ散在スルモノニシテ就中調査地方タル直入、玖珠、大野ノ三郡ニ多ク存在スルモノトス  
放牧畜一頭當ノ放牧面積ハ六反弱ニシテ縣全般ノ平均五反餘ニ比シ大差ナシ尙牧野面積中ノ利用割合ハ牧地トシテハ比較  
的的全面積ニ亘リ利用サルルモ採草地トシテハ從來採草上便利ナル場所ガ多ク局部的ニ利用サルル傾向大ナリシモ之ガ改善方  
法漸次實施サレツツアリ

尙放牧採草地トシテ共同利用ニ供サレ居ルモノハ大部分村又ハ部落有地ニシテ縣全般ニ付看ルモ牧野面積ノ大部分ハ公有  
地及私有地ナリ而シテ部落有原野ノ村統一狀況ヲ看ルニ昭和四年末ニ於テ統一前縣下部落有ノ林野總面積約十一萬町中七萬  
九千町ハ原野面積ニシテ内五萬四千町ハ統一濟、殘三割二分ニ相當スル二萬五千町ハ未統一ニ屬シ調査地方ニ於テハ直入郡  
ヲ除キ玖珠、大野兩郡ハ未統一地方ナリ

### (二) 地勢、地味、氣候

調査牧野ハ海拔最高八百米、最低二百米ニ位スルモ九州本土ニ於テ第二位ニ在ル千七百餘米ノ大船山ハ殆ンド頂上迄放牧  
行ハルルモノノ如シ尙久住、大船ヲ中心トシテ展開サレタル大原野ハ傾斜緩漫ナルモノアリテ就中南北海部  
郡ト大野郡ノ境界方面ハ急峻ニシテ大船山腹ト共ニ放牧畜ノ墜落死傷スルモノ往々アリト  
概シテ氣候溫和、地味肥沃、清流多シ

### (三) 經營及利用狀況

#### イ 經營者、利用者其ノ他

經營者ハ改良牧野ニ於テハ部落ヲ單位トスル牧野組合、未ダ牧野組合ヲ組織セザル地方ニ於テハ舊來ノ慣行ニ從ヒ部落民  
ガ申合的ニ共同利用シツツアルモノニシテ組合員即利用者ハ從來ヨリ部落有地ニ放牧採草ノ權利ヲ有スル住民ナリ而シテ牧

野組合ハ任意組合組織ニシテ牧野ノ維持改良ノ目的ヲ以テ之ニ對スル權利義務其ノ他ノ關係ヲ明カニスル牧野組合規程ヲ設  
ケ議決機關トシテ組合會議、執行機關トシテ管理者ヲ設ケ着々實施シツツアリ

尙組合經費ノ賦課ハ各牧野組合ニ依リ差異アリ即放牧監視人ノ給料ハ放牧頭數割トシ牧野ノ修理其ノ他ハ組合員平等徵收  
トスルモノ、組合員中現在放牧利用スルモノト然ラザルモノトノ徵收割合ヲ異ニスルモノ或ハ放牧スルト否トニ拘ラズ一定  
年齢以上ノ飼養牛馬ニ對シ頭數割(金額ニ差異アリ)ヲ徵收スルモノ等アリ

#### ロ 事業ノ概況

##### 放牧ノ場合

放牧地 放牧地個々ノ面積ハ九十二町乃至二百三十町、普通五十町内外ノモノ多キモノノ如シ一般ニ草立良好ニシテ主ナ  
ル野草ハ萱、チガヤ、萩等ナルモ荒廢ニ傾キタル所ハ小笹、蕨等ノ發生セルアリ反當收量ハ平均二百貫乃至五百貫ト稱セラ  
レ放牧地ノ管理トシテハ土壘其ノ他ノ設備ノ修繕、雜木刈取等ヲ行フ外ニ火入ヲ毎年又ハ二、三年ニ一回行フモノトス而シ  
テ放牧地ノ設備ハ隔墻物トシテ普通土壘、石壘、切取等ヲ用ヒ飲水場、監視人小屋等設ケタルモノ、然ラザルモノ、庇蔭樹  
ノ植栽ヲ行ヒツツアルモノ、然ラザルモノアリ

放牧家畜 放牧ハ普通牛馬混牧ナルモノヲ主トシ放牧頭數牛百八頭乃至四百一頭(外ニ犢十頭乃至四十頭)ニシテ縣全般  
ヨリ看ルモ放牧頭數ニ於テ寧ロ多キ部位ニ屬ス放牧時期ニ依リ頭數ニ制限、差異アルノミナラズ毎年草生狀態ニ依リ頭數ノ  
變更アルモノナリ而シテ種類ハ所謂豐後牛ニシテ年齢ハ生後八箇月以上ノ牡牛ハ放牧ヲ禁止セラルルモ他ニ制限ナク一般ニ  
放牧畜ハ強健ニシテ榮養可良トナルモ犢ハ初期ニ於テ下痢ヲ起スコトアリト稱セラル一部地勢急峻地方ニ於ケル傷害ヲ除キ  
疾病、傷害等殆ンドナキモノトセラレ



放牧方法 放牧畜ノ監視ハ特ニ有給ノ監視人ヲ置クモノ又ハ監視人ヲ置カズ組合員各自ガ交代ニ監視ヲ爲スモノアルモ普通各畜主ハ屢現地ニ赴キ僅少ノ食鹽等ヲ給與スルモノアリ放牧期間ハ普通開始五月中旬又ハ六月初旬、閉止九月下旬乃至十一月中旬ニシテ其ノ間二期又ハ三期ニ分チ放牧セラルルモノニシテ輪換放牧ハ一部地方ニ行ハルルモ未ダ一般的ナラズ而モ舊慣ヲ踏襲シツツアル地方ハ頭數其ノ他無統制ニ行ハル

#### 採草ノ場合

採草地 採草地ノ設備ハ普通放牧地トノ境界ニ土壘其ノ他ヲ設ケ放牧畜ノ進入ヲ防止スル以外特別ノ設備ナシ尙之ガ管理トシテハ火入以外ニナク一般ニ草立良好ナリ

採草方法 牧野改善地區ニ於テハ採草地ノ利用部落別又ハ一定數ノ利用人員別ニ區分使用シ或ハ區分ニ依リ輪換使用ヲナシ尙放牧ノ嚴禁、採草回數、採草量等ノ制限ヲナスト共ニ毎年相當ノ手入ヲナシ地方ニ依リテハ乾草採取ノ外採草ヲ禁ズル等相當統制アル利用ヲ講ジツツアルモ一般ニハ未ダ組合ノ規程又ハ相互ノ協定充分實行サレザルモノノ如シ牧野組合ノ設置ナク舊慣ヲ保テル地方ニ於テハ未ダ無統制ノ利用繼續サレ局部的ノ濫獲其ノ他ノ爲荒廢ニ陥レルモノ尠カラザルモノノ如シ

採取期間、回數、分量及生、乾草別等ハ地方又ハ牧野組合ニ依リ差異アルモ生草ハ七月下旬乃至八月下旬、食乾草ハ八月上旬乃至九月下旬、碎乾草ハ九月下旬乃至十月上旬以降ノ間ニ採取サレ採草回數ハ一地一回、採草量ハ一戸一日一頭ニ付一駄トシ生、乾草別ハ生、乾草共ニ採取スルモノ、乾草ノミノ採取ヲナスモノアリ而シテ生、乾草ノ利用面積割合ハ略相半ス

#### 收支計算

共同利用ニ係ル牧野經營ノ收支ハ各牧野ニ依リ區々且其ノ詳細明カナラザルモ今其ノ收支ノ主ナル項目ニ付概説スレバ收入ノ最モ普通ナルモノハ放牧頭數割ニシテ尙臨時的ノ支出例バ牧野ノ新設、大修繕等ニハ一般ニ組合員平等ニ臨時的負擔ヲ



課スルコトアリ又牧野ノ新設ニ當リテハ調査牧野ハ何レモ一千圓以下ノ縣費獎勵金交付ヲ受ケタリ經常支出ノ最モ普通ナルモノハ監視人ノ給料ニシテ最高額ヲ占メ尙少額ノ設備維持修繕費ヲ要ス他ニ利用土地ノ所有關係ヨリ賃借料、使用料、公租公課ヲ負擔スルコトアリ而シテ右支出中牧野ノ設置及改良修繕等ニ在リテハ現金支出ノ外可及的自給勞力ニ俟ツモノトス

#### (四) 使用收益關係

土地ノ所有者ハ主トシテ村又ハ部落ニシテ一般ニ部落有林野統一地ニ於テモ從來ノ慣行ニ依リ關係地元部落民ニ依リ共同利用セラルルモノトス統一地ニアリテハ統一財產管理規程ニ基キ利用セラレ尙牧野ノ一部ニ入會關係ノモノアルモ多クハ事實分割使用サレ部落有地ト同様ニ利用セラル私有地ヲモ併セ利用スルモノニ在リテハ舊慣ニ依リ放牧採草ノ範圍内ニ於テ無償利用スルモノ及一定ノ契約ノ下ニ賃借料ヲ支拂ヒ利用スルモノノ二種類アリ尙牧野ニ關スル經費ノ内公租公課ハ土地所有者、改良修繕ニ關スルモノハ利用者負擔スルガ普通ナリ

#### (五) 調査地方ニ於ケル牧野利用ト他産業トノ關係

##### イ 牛ノ飼育ト牧野利用

牛ノ飼養生産最モ多キハ調査地方タル大野、直入、珠玖ノ三郡ニシテ嶺然頭角ヲ現シ縣下畜牛ノ約半數ヲ占メ三萬二千頭ヲ有ス尙生産頭數ハ三郡ヲ合シテ約一萬一千頭ニシテ縣下産犢ノ六割五分ニ達ス

即右三郡ハ縣下ニ於ケル牛ノ主要生産地ニシテ他面放牧採草ニ利用セラルル原野面積モ縣下總面積ノ約半ニ達スルヲ看ルベシ

農家百戸ニ對スル牛馬飼養戸數ハ大野郡八十五戸、直入郡九十九戸、珠玖郡ハ實ニ百六戸、尙農家百戸ニ對スル牛馬飼養頭數ハ大野郡最モ少クシテ百十五頭、直入郡百九十八頭、珠玖郡百八十一頭ノ割合ヲ示シ縣下ニ於テ最モ有畜農業ノ普及セ



ル地方ナリ而シテ之等飼養牛馬ノ大部分ハ原野ノ放牧採草ト離ルベカラザル關係ヲ有スルモノニシテ牧野利用ト他産業トノ關係左ノ如シ

#### □ 普通農業トノ關係

南山田村ヲ除キ三重、久住ノ兩町共當該地方貨物集散ノ中心地ナルヲ以テ商家戸數相當多キモ尙其ノ大部分ハ有畜農家ナリ

耕地ハ之ヲ山林原野ニ比スレバ甚狹面積ナルモ農家一戸當ノ耕作面積ハ普通八、九反ヨリ一町一、二反ニ及ビ田ハ稻ノ一毛作ヲ主トシ麥ノ裏作ハ一部地方ニ行ハルルニ過ギズ畑作ハ自家用蔬菜類ノ外一般ニ荳菽類多ク畜禽ノ飼料ニ供セラルル玉蜀黍ハ主トシテ直入郡ノ熊本縣境ニ栽培セラル而シテ各農家共二、三頭乃至四、五頭ノ牛馬ヲ飼養シ豐富ナル原野ノ利用ニ依リテ飼料ト勞力ヲ節シ自給肥料ヲ増産シ尙畑地多キ關係上畜力ノ利用ハ年内ヲ通ジテ間斷ナク行ハレ殊ニ販賣收入ノ少キ山村農家ニ仔畜ノ販賣ニ依ル現金收入ヲ多カラシムル等農家經濟上重要ナル地位ヲ占メ耕種ト畜産トハ離ルベカラザル有機的結合ヲ爲セリ

#### ハ 養蠶業トノ關係

主トシテ自然的環境ニ支配セラレ當該地方ニ於テハ一般ニ養蠶業甚振ハズ從ツテ農業經營上畜産ト關聯ヲ生ズル場合極メテ少シ

#### ニ 林業トノ關係

大野郡ハ縣下第一ノ大郡ニシテ森林面積首位ヲ占メ原野面積ノ三倍以上ニ達シ直入、玖珠ノ兩郡ニ在リテモ森林ハ原野ト略同面積ヲ有ス而シテ之ガ所有關係ヲ看ルニ私有地其ノ大半ヲ占メ國有地、公有地之ニ次ギ他方原野ノ公有地最モ多ク私有

地之ニ次グト著シキ對照ヲナスヲ知ルベシ部落有地ノ利用上森林ト牧野延テ畜産トハ極メテ重要ナル關係ヲ生ズルガ直入郡ハ部落有林野ノ殆ンド全部統一濟ナルモ大野、玖珠ノ兩郡ニ在リテハ未統一地相當多ク之等ハ共同牧野トシテ相當ノ成績ヲ收メツツアリ而シテ調査各町村共林業收入ハ町村産業收入ノ重要ナル部分ヲ占ムルモ之ガ所有ノ關係ヨリ看テ其ノ所得ノ歸屬スル所ハ殆ンド町村又ハ町村一部階級ノ人ニ限ラレ畜産收入ノ如ク大多數ヲ占ムル農家ノ所得ニ關係ヲ有スルモノニアラズ局部的ニ之ヲ看ル時ハ木炭ノ製造、椎茸ノ栽培等ニ農家ノ餘剩勞力ヲ利用シ相當ノ收益ヲ收メツツアル所アリト雖耕種ト畜産トノ結合關係ノ如ク極メテ普遍的ニシテ密接不離ノ有機的關係ヲ有スルモノニアラズ

尙荒廢畑ノ一部造林地化セララルル傾向認メラルルモ右ハ主トシテ地主ノ所有ニ係ル小作地ナリ

#### (六) 牧野ニ關スル獎勵施設

本縣ニ於テハ大正七年度ヨリ同十一年度迄縣費補助ヲ以テ各地ニ放牧地ヲ設置セシメ尙昭和二年度ヨリ同四年度迄縣費補助ヲ以テ玖珠、大野、直入ノ三郡ニ模範牧野ヲ設置セシメ一般當業者ニ其ノ範ヲ示シ牧野利用ノ實績ヲ擧グル等其ノ成績看ルベキモノ尠カラズ



昭和六年一月三十一日印刷  
昭和六年二月二日發行

# 農林省畜産局

東京市京橋區南鍛冶町二十四番地

印刷者 小松善作

東京市京橋區南鍛冶町二十三番地

印刷所 小松印刷所

電話京橋(二六六六番  
六五〇六番)



終